

4 租税教育と各教科との関連

租税教育の取組は、全教育活動において、各教科で培った知識および技能を統合し、実社会の課題解決に活かすためのデータや客観的事実に基づいた公共的な課題解決を促すものである。これは、生徒が主体的に行動する態度や社会貢献への意欲を育むことを重視した、学びの場としても有効である。また、郷土に関する知識や郷土愛に根差した精神・態度を育てることに重点を置くことで、未来を担う社会の形成者としての自覚を促し、地域課題を自らの課題として捉え、解決しようとする精神を培うことができる。このような学びを通じて、生徒の理解はより深まり、実践的な力の育成につながると考えられる。

1 租税教育と各教科とを結びつけるためのポイント

- 生活との結びつき：各教科の学びを、地域社会の課題や自分の将来の生活に直結させ、探究の動機づけとし、「自分ごと」として捉えさせる。
- 知識の統合と実践：各教科で得た知識を、フィールドワークや発表などの体験を通して統合的に活用させ、学びを定着させる。
- 主体的行動と未来志向：探究プロセス全体を生徒自身が主体的に進める中で、郷土愛に基づき公共的な意思決定に参加する意欲と態度を育むことができるようにする。

2 各教科との具体的な関連性

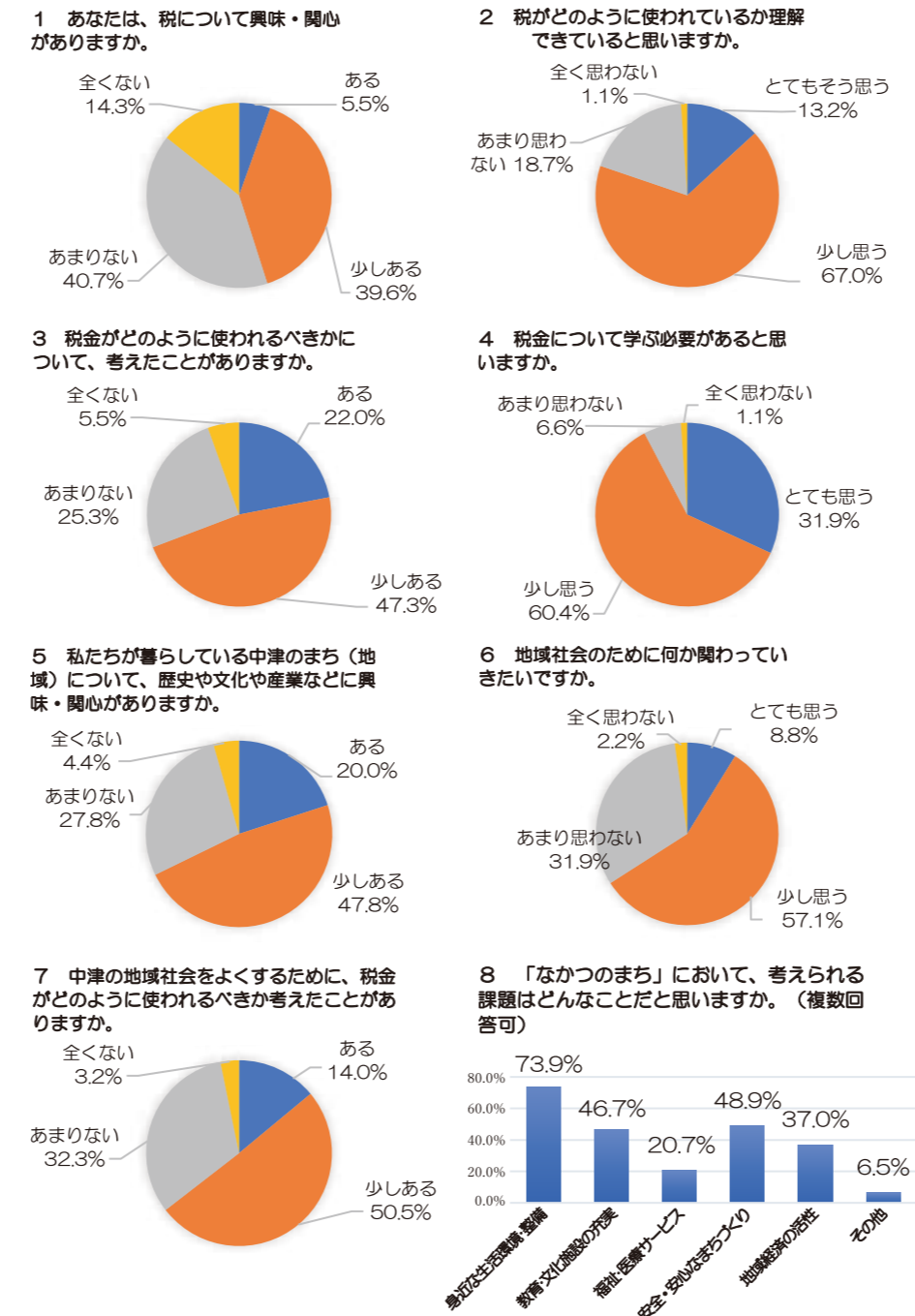
| 教科 | 租税教育との関連 |
|------|----------------------------------|
| 国語 | 文章・論理的な表現による社会理解（資料の読解・表現と義務） |
| 社会 | 民主社会の仕組みと納税義務（民主主義と公共サービスの財源） |
| 数学 | 財政資料の分析と数理的思考（統計分析と財政の現状把握） |
| 理科 | 公共物の恩恵と環境への公的支出（科学技術・環境対策への公的投資） |
| 外国語 | 国際社会・異文化と税制の比較（世界の文化・制度と国際協力） |
| 技術科 | 資源の有効活用と公的資金（持続可能な社会と資源利用） |
| 家庭科 | 生活設計・消費と税のかかわり |
| 音楽 | 公共物（楽器）の愛護と文化への公的支援 |
| 美術 | 公共物・文化財の保全と芸術支援 |
| 保健体育 | 公共施設利用のルールと社会保障 |

5 研究経過

| 令和6年度(2024年度) | | 令和7年度(2025年度) | |
|---------------|-------------------------------------------|---------------|--------------------------------------------|
| 4/17 | 租税教育研究推進委員会 | 4/28 | 租税教育研究推進委員会 |
| 5/13 | 租税教育委嘱交付式 | 4/28 | 校内租税教育研究計画提案 |
| 5/21 | 講演会「ふるさとの海を考える」(全校) | 5/19 | 租税教育アンケート(全校) |
| 5/29 | 租税教育事前説明会(研究の内容の確認) | 6/9 | 租税教室(講演会)税理士を招いて |
| 6/17 | ピーチクリーン活動(全校) | 7/9 | 校内研究会 |
| 6/19 | 租税教育研究計画提案 | 7/31 | 租税教育研究推進委員会 |
| 7/5 | 租税教育アンケート(全校) | 夏季休業中 | 税に関する作文の取組 |
| 7/9 | 租税教室(講演会)税理士を招いて | 8/27 | 租税教育研究推進委員会 |
| 8/6 | 租税教育研究推進委員会 | 9/3 | 校内指導案審議 |
| 夏季休業中 | 税に関する作文の取組 | 10/9 | 校外学習(3年) |
| 10/2 | テーマ「まちづくり」についての講話(3年) JC(中津青年会議所)の方に学ぶ | 10/30 | 「ふるさと中津のまちづくり」プレゼン(3年) JC(中津青年会議所)の方に学ぶ |
| 10/31 | 社会見学(3年):豊後高田市昭和の町へ | 11/11 | まちなみ探検(校外学習)(1年) |
| 11/21 | 校内研究会:総合的な学習の時間(3年) | 11/14 | 研究発表会(3年) |
| 12/23 | 「ふるさと中津のまちづくり」(3年) プレゼン発表 | | 「ふるさと中津のまちづくり」プレゼン及び これまでの本校の研究について |
| 1/29 | 租税教育研究推進委員会 | 11/28 | 「ふるさと中津のまちづくり」(3年) |
| 2/9 | 租税教育研究推進委員会 | | プレゼン発表 |
| 2/7・14 | まちなみ探検(校外学習)(1年) | 2/4 | まちPR動画 CMコンテスト(2年) |
| 3/12 | まちPR動画 CMコンテスト(2年) | (予定) | |

6 租税教育アンケート結果(実態)

租税に関するアンケート(2025年5月実施)



分析

- 税について学ぶ意欲と地域社会への高い関心**
 - 「税について学ぶ必要がある」と回答した生徒は92.3%
 - 「自分たちの暮らすまちに興味・関心がある」と回答した生徒は67.8%
 - 租税教育と地域社会を関連づけることで、学習意欲を効果的に引き出せることが示されている
- まちの課題を「自分ごと」として認識**
 - 「まちをよくするために税金が、どのように使われるべきかを考えたことがある」と回答した生徒は64.5%
 - 考えた課題は、身近な生活に直結するものが多い。
 - 生徒は「税金を自分たちのまちに活かすこと」を前向きに捉えており、主体的な姿勢が見られる。

研究同人

| | | | | |
|-------|----------|------|----------------|---------------|
| 令和6年度 | 校長 今井 克人 | 推進委員 | 實珠山 健介(教務) | 今吉 暁子(未来づくり部) |
| | 教頭 乙咩 道子 | | 山根 小百合(学びづくり部) | 高濱 光宏(絆づくり部) |
| 令和7年度 | 校長 今井 克人 | 推進委員 | 熊谷 恵至(教務) | 今吉 暁子(未来づくり部) |
| | 教頭 山本 哲也 | | 山根 小百合(学びづくり部) | 高濱 光宏(絆づくり部) |

令和6・7年度

大分県租税教育推進協議会委嘱

研究報告書

学校教育目標

自ら学び 互いを尊重し 意欲的に活動する
「自律」した生徒の育成

租税教育研究主題

自ら学び活動できる生徒の育成
～「なかま」とつながり、
社会に貢献しようとする生徒をめざして～

令和7年(2025年)11月14日(金)



城北中マスコット
キャラクター
はーぷちゃん

中津市立城北中学校

〒871-0078

大分県中津市小祝525番地11

TEL: 0979-22-0780

FAX: 0979-22-0795



1 租税教育研究主題設定の背景と理由

学校教育目標

自ら学び 互いを尊重し 意欲的に活動する
「自律」した生徒の育成

租税教育研究主題

自ら学び活動できる生徒の育成
～「なかま」とつながり、
社会に貢献しようと努力する生徒をめざして～

- 青（自ら学び）：生徒の主体的学習の姿勢
- 緑（尊重・つながり）：人間関係や協働性の基盤
- 赤（自律・貢献）：「自律」が社会で発揮される最終的な姿

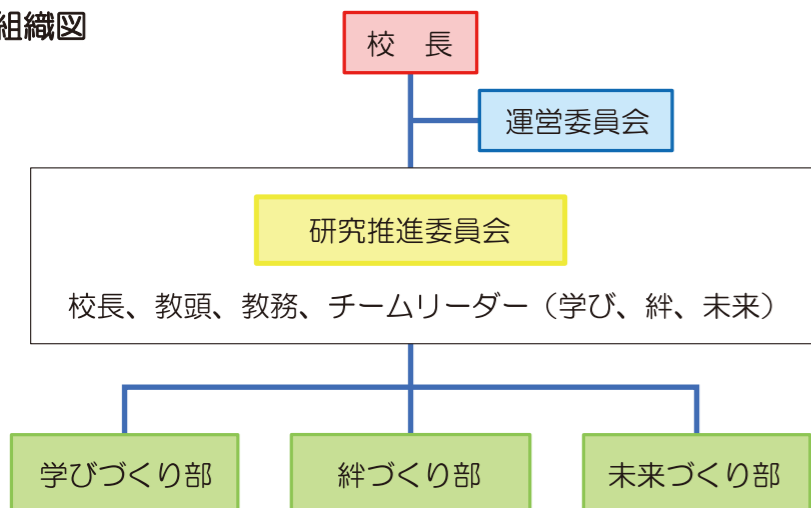
現代社会は、知識を詰め込むだけでなく、得た情報をもとに「考え」「判断」「表現する」力が求められている。中学生にとっても、将来の社会的自立を見据えた「生きる力」の育成が求められている中で、特に他者の話を丁寧に聴き、自分で考えを深め、それを適切に伝える力の育成が重要になっている。

租税教育の実践は、「聴く・考える・表現する」力の育成において、特に表現活動の集大成と位置づけられる。そこで、全教科でI(Input)・T(Think)・O(Output)の流れを意識した授業デザインを再構築するとともに、特に、総合的な学習の時間で進めてきた地域貢献活動の経験を活かし、「ふるさと中津と私たち」というテーマと租税教育を結びつけた。

これにより、生徒は粘り強く課題を探究し、社会の仕組みを理解した上で、自らの意見を社会に発信する力を養える。この研究は、生徒がふるさとへの理解を深めるとともに、地域社会とつながり、貢献しようとする態度を育むことを目的とする。

2 研究内容と本校の租税教育の目標

◇組織図



◇研究仮説

本研究では、「I・T・Oデザイン」を取り入れた授業づくりと、「ふるさと中津と私たち」をテーマにした探究活動を系統的に位置づけることによって、生徒は「聴く・考える・表現する」活動に主体的に取り組むようになると仮定する。その過程で、自ら深く学ぶ力や社会とのつながりを意識する態度が育成され、意欲的に学び活動する自律的な姿へと成長が期待される。

I・T・Oデザイン（学習の柱）

- Input（聴く）…資料や他者の意見を受け止める。
→他者の意見や資料から「聴き取り・感じ取り・読み取り」を行う。
- Think（考える）…比較・整理し、自分の考えを深める。
→得た情報をもとに思考し、根拠や理由を整理しながら、課題設定や問題解決に繋げる。
- Output（表現する）…自分の考えを言葉や行動で発信する。
→自分の言葉で説明・発表、ディスカッション、ポスターやリーフレット、PR動画の作成、ICTツールを活用したプレゼンなどを行う。

◇租税教育の目標

| | 租税教育の目標 |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全体目標 | 正しい知識に基づく租税観を土台として、社会の課題を多面的に捉え、根拠を明確にしながらか他者と協働して最適解や最善策を創造し、それを社会に発信する力を身につけるとともに、郷土愛に根差した社会貢献への意欲を育み、主体的・自律的に行動する態度を育成する。 |
| 1年 (知識の収集) | 税や社会の仕組みに関心をもち、身近な生活における税の意義を理解しながら、社会の課題を簡単に捉え、仲間と主体的・協働的に学習に取り組もうとする態度の基礎を育成する。 |
| 2年 (活用・探究) | 1年次に学習した税に関する正しい知識を活用し、社会の課題を根拠をもって捉え、その解決に向けた考えを整理・深化させ、説明・表現するとともに、社会に貢献しようとする態度を育成する。 |
| 3年 (提案・発信) | 地域財政や税制の仕組みを深く理解し、その知識を活かして課題を多面的に捉え、根拠を明確にした最適解や納得解を創造・発信するとともに、社会貢献への意欲を養い、公共的な意思決定への参画態度を育成する。 |

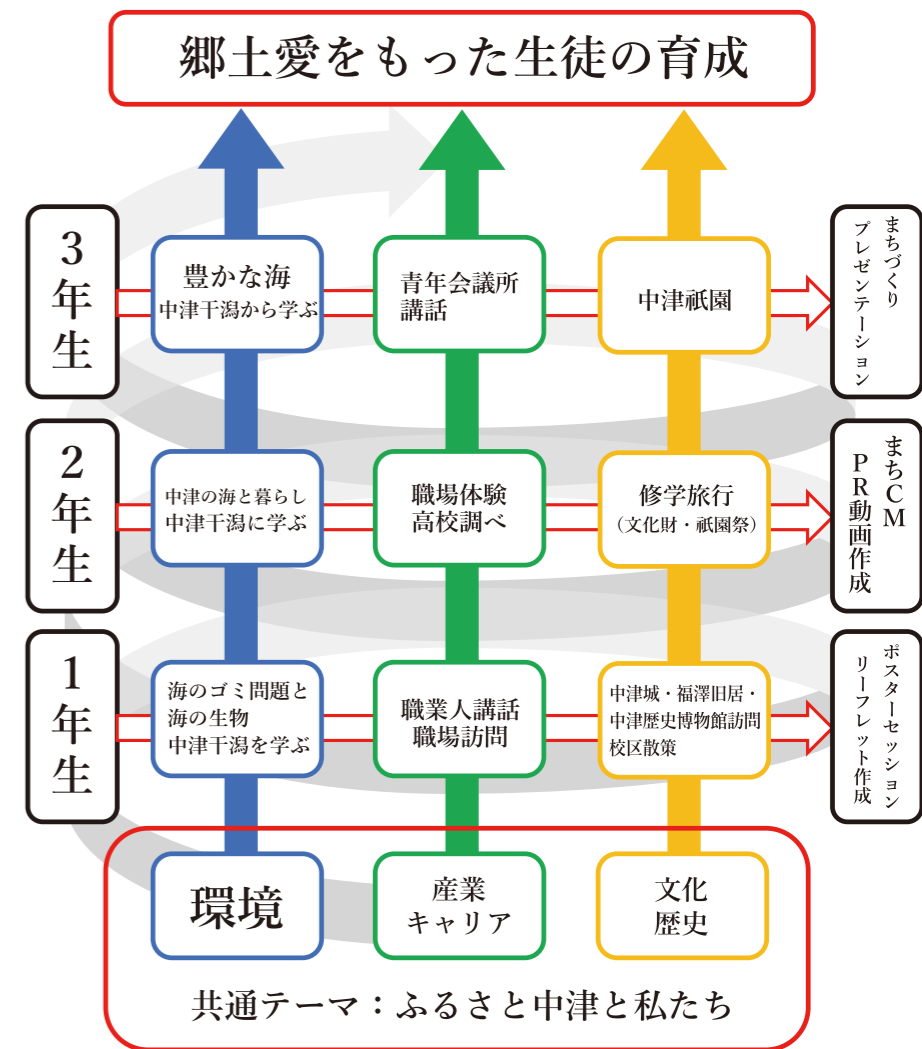
◇研究方法と概要

- ① 租税アンケートの実施と分析
- ② 教科：各教科の目標に沿った関連指導と協働学習
- ③ 道徳：公徳心や社会連帯の自覚を高め、持続可能な社会の実現(SDGs)
- ④ 特別活動：租税教室など、社会の一員としての自覚を高める活動
- ⑤ 総合的な学習の時間：体験学習を通じて、主体的、創造的に取り組む諸活動（ビーチクリーン活動、職場体験、なかつ観光ウォークラリー、中津の魅力発信PR動画活動、プレゼン発表）

| | 1年 | 2年 | 3年 |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 租税教室1（税理士による講演） | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 税の作文（国） 税の歴史（社） 社会生活ときまり（道） 税の基礎及び知識（総） クリーンアップ活動（総） 職場訪問（総） まちなみ探検（総） | <ul style="list-style-type: none"> 税の作文（国） 災害と防災（社） 遵法精神（道） 税の有効活用（総） クリーンアップ活動（総） 職場体験（総） 修学旅行 | <ul style="list-style-type: none"> 税の作文（国） 租税教室2（社） 財政と福祉（社） 社会貢献（道） クリーンアップ活動（総） 豊かな海をめざして（総） 高校調べ（総） 中津の文化財、祇園（総） 「なかつのまちづくり」（総） |
| | ポスターセッション リーフレット作成 | まちCM PR動画作成 | まちづくり プレゼンテーション |
| | 令和7年11月14日（金）租税教育公開研究発表会 | | |

3 総合的な学習の時間とI・T・O

◇なかつの未来を創る学びの羅針盤



◇総合的な学習の時間とI・T・Oとの関連

| 教科 | Input（聴く） | Think（考える） | Output（表現する） |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 総合 租税教育 環境学習 キャリア教育 歴史と文化 | <ul style="list-style-type: none"> ○税金の仕組みの説明や事例紹介を聴く ○ビーチクリーン事前学習で講師の話を聴く ○職場体験事前訪問で、職場の方の説明を聴く ○高校説明会で、卒業生の先輩による説明を聴く ○「ふるさと中津のまちづくり」の取組で、青年会議所の方や地域協力隊の方の話を聴く ○「なかつ観光ウォークラリー」で、中津の歴史的建造物や文化財などについて話を聴く | <ul style="list-style-type: none"> ○納税の意義や社会的役割について考える ○ビーチクリーン活動を通して「なかつの海」について考える ○「なぜ働くのか」「働くことのどんな点を学びたいのか」を考える ○「自分はどんなことを高校生活で学びたいのか」考える ○「志望する高校に入るために、今の自分に足りない力は何か」を考える ○「なかつ観光ウォークラリー」で、中津の歴史的魅力は何か」「自分はどんなところを誇りに思うか」を考える | <ul style="list-style-type: none"> ○税の意義や役割について考えたことを作文にまとめる ○ビーチクリーン活動で学習したこと、体験したことをポスターにまとめ、ポスターセッションする ○職場体験学習を通して、学んだこと、考えたことをスライドにまとめ、発表する ○中津の魅力について、PR動画を作成し、地域に発信する ○近隣の高校調べで分かったこと、なかまが知っていた情報をスライドにまとめ、発表する ○「なかつ観光ウォークラリー」で見つけた「なかつの魅力」をリーフレットにまとめる |

令和6・7年度 大分県租税教育推進協議会委嘱

租税教育公開研究発表会

研究のまとめ

研究主題

自ら学び活動できる生徒の育成

～「なかま」とつながり、社会に貢献しようと努力する生徒をめざして～



中津市立城北中学校

1. 学校教育目標と租税教育研究主題

| | |
|----------------------------------------------|----------------------------|
| 【学校の教育目標】 自ら学び 互いを尊重し 意欲的に活動する「自律」した生徒の育成 | 育成を目指す資質・能力 言語能力・自己調整能力 |
|----------------------------------------------|----------------------------|

| |
|---------------------------------------------------|
| 【研究主題】 自ら学び活動できる生徒の育成 ～人の話を聴き、考え、表現する活動の工夫～ |
|---------------------------------------------------|

| |
|------------------------------------------------------------------------|
| 【租税教育研究を踏まえた主題】 自ら学び活動できる生徒の育成 ～「なかま」とつながり、社会に貢献しようと努力する生徒をめざして～ |
|------------------------------------------------------------------------|

自ら学び：研究のスタートとなる、生徒の主体的学習の姿勢を示す
尊重・つながり：研究を支える、人間関係や協働性の基盤を示す
自律・貢献：研究が目指す、目標の「自律」が社会で発揮される最終的な姿を示す

※「聴く」「考える」「表現する」の力を育む I・T・O (Input・Think・Output) の視点を取り入れた授業づくりを通して育成し、特に租税教育の知識統合の場として位置づける

租税教育の目標

- ① ふるさと「なかま」の魅力や課題を考察し、発信する力を育てる
- ② 租税、納税に関する正しい知識と理解を深める
- ③ 学びの積み重ねを自分の将来に活かし、それを仲間や社会に伝える表現力を養う
- ④ 勤労を尊び、公共物を大切に、社会に積極的に参画しようとする態度を育む

2. 研究主題設定の理由

現代社会は、知識を詰め込むだけではなく、得た情報をもとに「考え」「判断し」「表現する」力が求められている。中学生にとっても、将来の社会的自立を見据えた「生きる力」の育成が求められる中で、特に他者の話を丁寧に聴き、自分で考えを深め、それを適切に伝える力の育成が重要になっている。

本校の生徒は明るく純粋で素直な生徒が多く、体育大会や合唱コンクールなど学校行事ではリーダーを中心にして準備や活動を進め、学級や小集団で「なかま」と交流し、つながりながら全校生徒がテーマを達成できるように取り組んでいる。また、本校は毎年「総合的な学習の時間」に全校で校区内にある海岸のゴミ拾いをするクリーンアップ活動を実施し、地域社会へ貢献するという経験をすることができている。さらに、生徒会執行部を中心に、学校近くにある漁港でとれるカキをモチーフにしたキャラクターを全校生徒で考案、作成した。こうした学校周辺の小祝地区を盛り上げようと地域社会に目を向けた活動を一步ずつ前進させようとしてきた。一方授業や学習活動においては、主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行ってきたが、依然として形式的な対話や表面的な意見交換にとどまっている例もみられる。一方で、粘り強く努力することや主体的に判断し自分で表現することを苦手としている生徒が多い傾向もみられる。

こうした実態から校内研究のテーマを「自ら学び活動できる生徒の育成～人の話を聴き、考え、表現する活動の工夫～」として、「表現する活動」に重点をおいて研究を進めてきた。「表現する活動」（考えたことを発表、説明する）を取り入れた授業実践、さらには「表現力の向上」をめざして、「話型を使った説明」「根拠を明確にした表現」など、内容を具体的に示して、表現力向上をめざす取組を進めてきた。

租税教育について生徒にアンケートをとると、「税に関するニュースをテレビや新聞で見たり聞いたりしたことがあるか」の項目では、「ある・少しある」と回答した生徒がどの学年も80%を超えており、税の言葉としての認識は多くあることがわかった。さらに、「税が役立っていると感じたことがあるか」の項目にも80%近い生徒が「ある」と回答している。それに対し、「税について興味・関心があるか」の項目では、「ある」と回答した生徒はどの学年も20%を下回り、「少しある」を含めても1、2年生は半数にも及ばない結果で、興味関心の薄さが見られた。これらのことから、税の認識はあり、何かしら役に立っているだろうと漠然としたものをもちつつ、興味関心は持っていないという生徒の実態が見えてきた。

租税教育の実践は、「聴く・考える・表現する」力の育成において、特に表現活動の集大成と考えられる。そこで、全教科・全学年の授業づくりにおいて、「聴く・考える・表現する」という学習活動の基本をI・T・O（Input・Think・Output）という明確な視点で整理し、それぞれを意図的に位置づけた授業デザインに取り組みたい。さらに租税教育を進めるにあたり、「ふるさと中津と私たち」のテーマを掲げて取り組んでいる本校の総合的な学習の時間において、各教科との関連を図りながら、各学年の探求課題を粘り強く追及していく取組を見直し、さらに充実させていくことが必要かつ有効ではないかと考えた。課題解決的な学びを通して、自ら学び・判断し・社会に提案する力が育つ。租税を切り口に、社会の仕組みを考え、自己の意見を社会に向けて発信する表現力を育てることにつながる。そして、「総合的な学習の時間」の取組を通して、郷土への理解を深めるとともに、「なかま」や社会とつながり、社会への貢献をめざす生徒の育成につながることを意図して、この研究テーマを設定した。

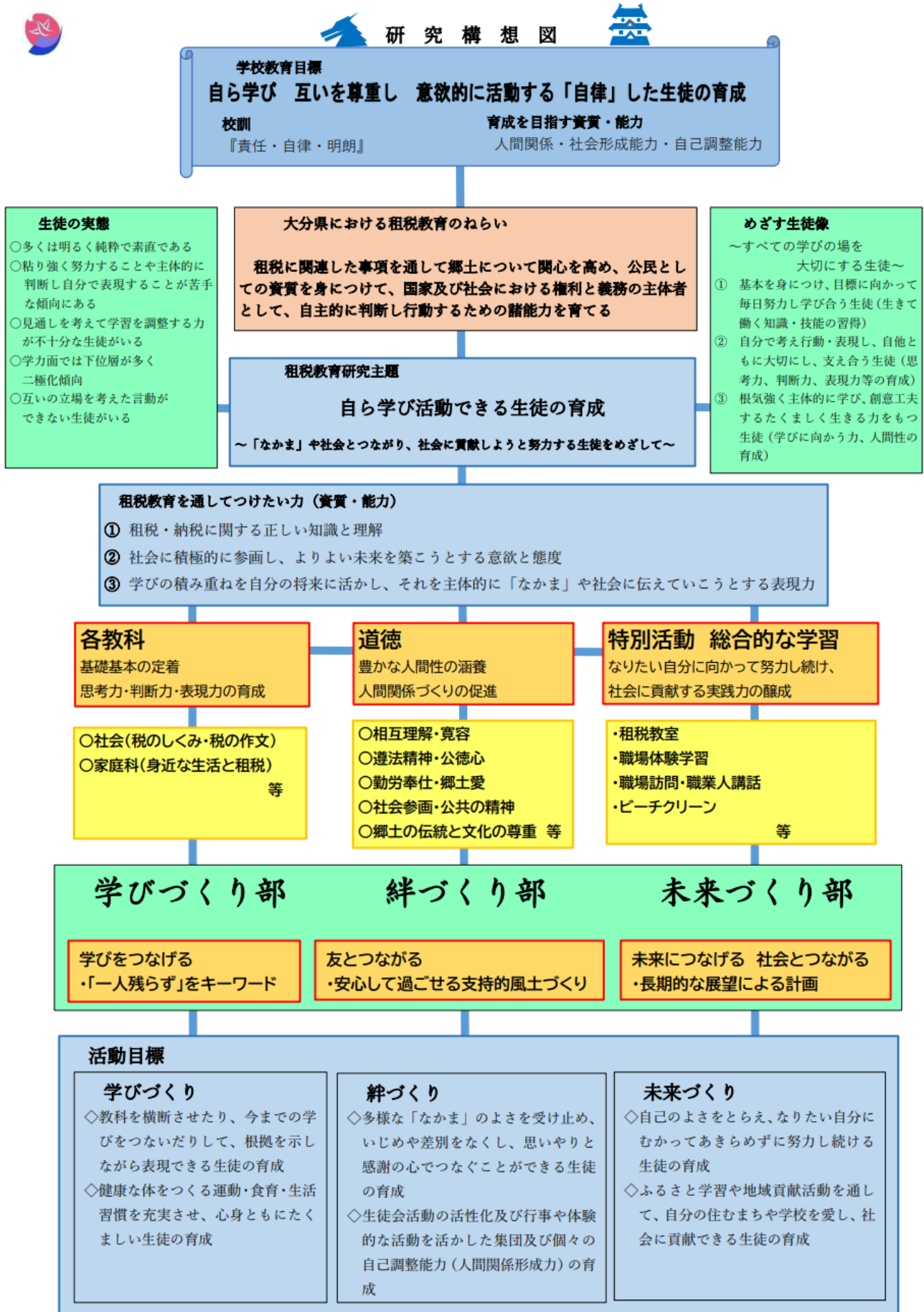
3. 研究仮説

「I・T・Oデザイン」を取り入れた授業づくりと、「ふるさと中津と私たち」をテーマとした探究活動を系統的に位置づけることによって、生徒は「聴く・考える・表現する」活動に主体的に取り組むようになるかと仮定する。その過程で、自ら深く学ぶ力や社会とつながりを意識する力が億世され、意欲的に学び活動する自律的な姿へと成長することが期待される。

4. 各学年の租税教育の計画と目標

| | 租税教育の目標 |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全体目標 | 正しい知識に基づく租税観を土台として、社会の課題を多面的に捉え、根拠を明確にしながら他者と協働して最適解や最善策を創造し、それを社会に発信する力を身につけるとともに、郷土愛に根ざした社会貢献への意欲を育み、主体的・自律的に行動する態度を育成する。 |
| 1年 (知識の収集) | 税や社会の仕組みに関心をもち、身近な生活における税の意義を理解しながら、社会の課題を簡単に捉え、仲間と主体的・協働的に学習に取り組もうとする態度の基礎を育成する。 |
| 2年 (活用・探究) | 1年次に習得した税に関する正しい知識を活用し、社会の課題を根拠をもって捉え、その解決に向けた考えを整理・深化させ、説明・表現するとともに、社会に貢献しようとする態度を育成する。 |
| 3年 (提案・発信) | 地域財政や税制の仕組みを深く理解し、その知識を活かして課題を多面的に捉え、根拠を明確にした最適解や納得解を創造・発信するとともに、社会貢献への意欲を養い、公共的な意思決定への参画態度を育成する。 |

5. 研究構想図



6. 研究内容

(1) 租税教育における ITO デザインの活用

- ・ Input

税の基本的な知識を動画や講話等で学ぶ。

- ・ Think

納税の意義や自分たちの生活の影響をディスカッションし考察。

- ・ Output

グループで納税者の立場のロールプレイや、地域の税に関する課題を題材にしたプレゼン。

| 視点 | 内容 | 教師の働きかけ | 生徒の学びの姿 |
|---------------------|------------------------|-------------------------------|-------------------------|
| I (Input) =聴く | 他者の話・資料・映像等を受け止める力 | 「聞き取る」「感じる」「読み取る」ための問いかけ・環境設定 | 聴く・読む・観ることから情報や考えを取り入れる |
| T (Think) =考える | 他者との違いや問いを通して考えを深める力 | 比較・分類・再構成等思考を促す活動設計 | 自分の考えをもつ・他者と比べて練り直す |
| O (Output) =表現する | 自分の考えや思いを言葉・行動・作品等で表す力 | 書く・話す・演じる等多様な表現の場を設定 | 自信をもって自分の考えを伝える・共有する |

※これらの活動を通じて、生徒は単に知識を得るだけでなく、税が自分たちの生活や社会とどのようになっているかを深く理解し、主体的に社会に貢献しようとする態度を育むことが期待できる。

(2) 租税教育と各教科との関連（例）

| 教科 | 租税教育との関連性の視点 | 重点的に育成したい資質・能力 |
|------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 国語 | 租税に関する文章の読解、考えたこと等を適切・効果的に表現。義務についての理解。書写・作文を通じた関心の育成。 | 読解力、論理的な表現力、公民としての義務についての自覚。 |
| 社会 | 国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。郷土や各地域と租税の関連を調査。租税の意義と役割、納税の義務。 | 公民的資質、郷土愛と探究心、民主社会における権利と義務の認識。 |
| 数学 | 表やグラフ、数値を通して数についての感覚を豊かにする。資料を収集・整理し、グラフで表現・分析。 | 論理的な思考力、客観的な資料に基づき財政の現状を分析する力。 |
| 理科 | 科学技術や公共的な施設（公園、上下水道等）が税によって支えられていることを理解する。環境問題解決のための公的支出に関心を寄せる。 | 科学技術と社会のつながりの認識、公共財の恩恵への気づき。 |
| 英語 | 異国の習慣、文化、風俗、ものの考え方の違いに対する理解を深める。国際的な役割や援助に関心を寄せる。 | 国際的な視野。異なる税制や文化への理解、国際社会の形成者としての自覚。 |
| 音楽 | 学校の公共物や備品（用具等）を大切にすることを育む。文化財の維持・管理や芸術活動への公的支援に気づく。 | 公共物を大切にすることを育む態度、文化・芸術活動の公共性への理解。 |
| 美術 | 学校の公共物や備品（用具等）を大切にすることを育む。文化財の維持・管理や芸術活動への公的支援に気づく。 | 公共物を大切にすることを育む態度、創造的な活動を支える社会的な仕組みの理解。 |
| 保健体育 | 体育施設、用具等の公共物を大切にすることを育む。健康を支える公衆衛生や社会保障制度に関心を寄せる。 | 公共物を大切にすることを育む態度、集団生活における協力とルール意識、社会保障の意義の理解。 |

| | | |
|------|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 家庭 | 家庭生活と税の関わりを調べる。生活設計能力を育成し、納税の必要性を理解する。地球環境を考え資源を無駄にしない心を育てる。 | 生活設計能力、公の財産を大切に する意識、納税意識。 |
| 技術 | 環境を意識した資源の有効活用や、公共物を大切に する意識を育む。技術開発と公的資金の 関係について考える。 | 公の財産を大切に する意識、持続可能な社会への 貢献意識。 |
| 道徳 | 人間尊重の精神を基盤とする道徳教育の 目標と、社会の一員としての責任を自覚 する租税教育のねらいが相通じる。 | 責任感、感謝の心、社会への 貢献意識、よりよい社会を目指す 態度。 |
| 特別活動 | 望ましい集団活動を通して、自主的・実 践的な態度を育てる。集団の一員として 全体に貢献する意識。 | 集団の一員としての自覚と責任 感、公共的な問題解決能力。 |
| 総合 | 教科等を超えて、自ら課題を見つけ、主 体的に判断し、問題を解決する資質・能 力を育てる。見学や調査、発表等の活 動を实践。 | 主体性と問題解決能力、郷土の課 題解決を通じた社会参画意識。 |

※租税教育と各教科とを結びつけるためのポイント

①「自分事」として捉えさせる（生活との接続）

「税金」という抽象的なテーマを生徒の日常生活や身近な社会に結び付けることが不可欠と考える

○具体的な関連づけ：

- ・身近な公共サービス（学校の施設、図書館、通学路、警察等）が税金で賄われていることを理解
- ・例えば、家庭科では、給与明細や消費税等、家庭の経済活動と税との関わりについて調べる

○育成したい意識：

- ・「税金は遠い国の話」ではなく、「自分の生活を支えているもの」であり、「自分も将来、社会を支える一因になる」という等事者意識を育む

②教科の「本質的な目標」に沿った連携

租税というテーマはあくまで素材であり、その教科本来の目標を見失わないことが重要

○国語との連携：

- ・税に関する資料を読み解かせる場合、目標は「税の知識」ではなく「文章を論歴的に読解し、自分の考えを正確に表現する力」を伸ばすこと

○理科・技術との関連：

- ・環境問題解決のための公共投資等に触れる場合、目標は「科学技術と社会とのつながりを理解し、持続可能な社会づくりに貢献する態度」を育むこと

○指導の工夫：

- ・教科の学習内容に自然と納税の視点を盛り込むことで、租税教育のための特別な時間を設けなくても、学習内容の深まりや広がりを生み出すことができる

③「公共の精神」と「社会参画」の意識づけ

単なる「納税知識」の学習ではなく、「民主社会の形成者」として必要な資質・能力を育む目的

○多角的な視点：

- ・社会科だけでなく、道徳や特別活動と連携し、公共の財産を大切に「態度や、集団の中で協力し貢献する意識を強調
- ・数学や総合的な学習の時間で、資料に基づき「税金の使い方」を分析・議論する等で社会に参画する態度を養う

○育成したい意識：

- ・納税は単なる義務ではなく、よりよい社会を維持・実現するための会費であり、その使い道について関心を持ち、議論に参加する責任があることを自覚

7. 研究計画

| 1年 | 2年 | 3年 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 租税教室Ⅰ（税理士による講演） | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・税の作文（国） ・税の歴史（社） ・社会生活ときまり（道） ・税の基礎及び知識（総） ・クリーンアップ活動（総） ・職場訪問（総） ・まちなみ探検（総） | <ul style="list-style-type: none"> ・税の作文（国） ・災害と防災（社） ・遵法精神（道） ・税の有効活用（総） ・クリーンアップ活動（総） ・職場体験（総） ・修学旅行 | <ul style="list-style-type: none"> ・税の作文（国） ・租税教室2（社） ・財政と福祉（社） ・社会貢献（道） ・クリーンアップ活動（総） ・豊かな海をめざして（総） ・高校調べ（総） ・中津の文化財、祇園（総） ・「中津のまちづくり」（総） |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ポスターセッション リーフレット作成 </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> なかつのPR動画 CM作成 </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> まちづくりプレゼン </div> |

8. 研究の経過

【令和6年4月～令和7年3月】

| 行事名 | 実施時期 | 実施概要 |
|---------------------------|---------------------------|----------------------------------|
| 租税教育研究推進委員会 | 4月17日 | 租税教育研究推進体制・取組内容について |
| 租税教育委嘱交付式 | 5月13日 | 租税教育研究委嘱校について説明 税務署より3名来校 |
| 講演会 「ふるさとと海を考える」 | 5月21日 | NPO法人南港ウェットランドの和田太一氏のお話を聞く（ZOOM） |
| 租税教育事前説明会 | 5月29日 | 租税教育研究の内容確認 |
| ビーチクリーン活動（全校） | 6月17日 | 校区の海岸でゴミ拾い活動を実施 |
| 租税教育研究計画提案 | 6月19日 | 校内研究のI年次活動の計画、確認 |
| 租税教育アンケート | 7月5日 | 租税教育アンケート実施（全校生徒対象） |
| 租税教室（講演会） | 7月9日 | 税理士権田幸平氏を招いて租税教室を実施 |
| 「税の作文」月間取組 | 7月10日～8月24日 *夏期休業日を中心に | 租税教室の学びから「税の作文」に取り組む（全校生徒） |
| 租税教育研究推進委員会 | 8月6日 | 2学期に向けて研究計画の確認 |
| テーマ「まちづくり」について講話（3年生） | 10月2日 | 中津青年会議所（JC）の方から学ぶ |
| 校外学習：豊後高田市昭和の町へ（3年生） | 10月31日 | 昭和の町で「まちづくり」についてインタビューする |
| 校内研究会：総合的な学習の時間（3年3組） | 11月21日 | 「ふるさと中津のまちづくり」プレゼン発表会を実施 |
| 「ふるさと中津のまちづくり」プレゼン発表会（全校） | 12月23日 | 3年生の代表グループが全校生徒の前でプレゼン発表を行う |

| | | |
|----------------------|---------|-----------------------------------|
| 租税教育推進委員会 | 1月29日 | 租税教育1年次のまとめと来年度に向けて審議① |
| 租税教育推進委員会 | 2月9日 | 租税教育1年次のまとめと来年度に向けて審議② |
| 校外学習：まちなみ探検 (1年生) | 2月7・14日 | 校区内を散策し、歴史的建造物などを巡る学習を実施 |
| まちPR動画CMコンテスト | 3月12日 | 学級内で動画CMについて発表して投票する (期末授業公開日) |

【令和7年4月～ 】

| 行事名 | 実施時期 | 実施概要 |
|---------------------------------|---------------------------|------------------------------------------|
| 租税教育推進委員会 | 4月28日 | 1年次のまとめと2年次の計画について提案 |
| 租税アンケート(全校) | 5月19日 | 租税アンケートを実施(全校生徒対象) |
| 租税教室(講演会) | 6月9日 | 税理士権田幸平氏を招いて、租税教室を実施 |
| 校内研究会:社会科(1年2組) | 7月9日 | 青柳教諭による1年2組社会科研究授業 (全教職員研修) |
| 「税の作文」月間取組 | 7月20日～8月24日 *夏期休業日を中心に | 租税教室の学びから「税の作文」に取り組む (全校生徒) |
| 租税教育研究推進委員会 | 7月31日 | 1学期の経過と発表に向けた準備について |
| 租税教育研究推進委員会 | 8月27日 | 2学期公開授業についての審議 |
| 校内指導案審議 | 9月3日 | 2学期公開授業について校内研修 |
| 校外学習:耶馬溪町津民小へ (3年生) | 10月9日 | 地域おこし協力隊や青年会議所の方々から「まちづくり」について学び、体験活動を実施 |
| 「ふるさと中津のまちづくり」 プレゼン資料審議(3年生) | 10月30日 | プレゼン資料について青年会議所の方々からアドバイスをいただく |
| 校外学習:まちなみ探検 (1年生) | 11月11日 | 校区内を散策し、歴史的建造物などを巡る学習を実施 |
| 租税教育研究発表会 | 11月14日 | 「ふるさと中津のまちづくり」公開授業及びこれまでの研究について |

9. 「総合的な学習の時間」「各教科」との関連

(1) 「総合的な学習の時間」年間指導計画及び単元計画

【1年 総合的な学習の時間 年間指導計画】

| 学期 | テーマ | 日程 | 時数 | 内容 |
|-----|-------------------|-----|-------------|-----------------------------------------------------------|
| 1学期 | 海のごみ(環境) 11.時間 | 4月 | 1 2 | ・中学校生活に向けて(キャリアノート) ・SDGsについて(調べ学習) |
| | | 5月 | 1 | ・海についての講話 |
| | | 6月 | 1 2 | ・ごみの処理についての講話(市役所) ・ビーチクリーン |
| | | 7月 | 3 1 | ・環境について新聞発表(ポスターセッション) ・1学期の終わり(キャリアノート) |
| 2学期 | 中津城等への訪問 15.時間 | 8月 | 1 1 | ・2学期に向けて(キャリアノート) ・自分の住んでいる地域(魅力やよさ)について知る |
| | | 9月 | 4 | ・自分の住んでいる地域(魅力やよさ)について知る |
| | | 10月 | 3 | ・ウォークラリー見学地調べ |
| | | 11月 | 1 3 | ・中津城周辺のウォークラリー ・ウォークラリーを基にした観光パンフレット作成 |
| | | 12月 | 2 | ・パンフレット披露会 ・2学期の終わり(キャリアノート) |
| 3学期 | 職場訪問 19.時間 | 1月 | 1 2 1 | ・3学期に向けて(キャリアノート) ・職場訪問に向けて ・職業人講話 |
| | | 2月 | 10 | ・職場訪問の実施 ② 職業について ② 地域の魅力・課題について(まちの人の要望等) |
| | | 3月 | 2 2 1 | ・職場訪問のまとめ(新聞づくり) ・新聞発表(ポスターセッション) ・3学期の終わり(キャリアノート) |

租税教育
(ごみ関係)



租税教育
(勤労と納税)



【1年 総合的な学習の時間 単元計画】

単元名 ふるさと中津の海と私たち～中津の海の問題を考える～

1 単元の目標

中津の海や環境問題に関する探究的な活動を通して、中津の海の素晴らしさや環境の現状を知り、ふるさと中津の海を守っていこうとする姿勢を育てるとともに、中津の海に関する課題や解決策を考え、行動できるようにする。

2 評価計画

| 観 点 | 三つの力 | 評 価 規 準 | 評 価 方 法 |
|---------------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 知識・技能 | 聴く (Input) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方による講話や体験活動を通し、中津の海や抱える環境課題について読み取ることができる ・問いを自らたてようとする姿勢がある | 観察記録 ワークシート |
| 思考・判断・表現 | 考える (Think) | <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報をもとに、自分なりの考えをまとめている ・多面的・多角的に考えようとしている | ワークシート |
| | 表現する (Output) | <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を意識して伝え方を工夫している ・自分の考えや調べたことをわかりやすく伝えようとしている | 発表, 新聞 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 聴く (Input) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や仲間の話に耳を傾け、興味・関心を持って学ぼうとしている ・課題解決に向けて意欲的に活動している。 | 観察記録, 振り返りシート |

3 単元の計画

| 時 | 内 容 | 育てる力 | 主な学習活動・ねらい |
|------|---------------------|---------------------|------------------------------------------|
| 第1時 | 中津干潟についての講話 | 聴く (I) 考える (T) | 中津干潟の現状や魅力についての講話を聴いて学ぶ。 |
| 第2時 | 1学期の総合学習の内容把握 | 聴く (I) 考える (T) | 1学期の総合的な学習の時間の内容を把握する。 |
| 第3時 | 探究学習 | 考える (T) 表現する (O) | 各班でテーマを定め、役割分担をし、干潟や中津の海の問題についての調べ学習を行う。 |
| 第4時 | 中津干潟観察会 | 聴く (I) 考える (T) | 中津干潟に行き、観察・地域資源調査を行う。 |
| 第5時 | リサイクル集会 | 聴く (I) 考える (T) | 中津市のごみ問題に関する講話を聴いて学ぶ。 |
| 第6時 | ビーチクリーン事前学習 | 聴く (I) 考える (T) | ビーチクリーンを行う意義について学ぶ。 |
| 第7時 | 環境についての新聞づくり① | 考える (T) 表現する (O) | 講話や調べ学習の内容をもとに各班で中津の海・環境に関する新聞づくりを行う。 |
| 第8時 | ビーチクリーン | 聴く (I) 表現する (O) | 中津干潟に行き、清掃活動を行う。 |
| 第9時 | 環境についての新聞づくり② | 考える (T) 表現する (O) | 環境についての新聞作成を行う。 |
| 第10時 | 環境についての新聞づくり③, 発表練習 | 考える (T) 表現する (O) | 環境についての新聞作成を行う。 |
| 第11時 | 環境についての新聞発表会・ふり返し | 聴く (I) 表現する (O) | 各班で作成した新聞をクラス内で発表し、評価シート・振り返りシートの記入を行う。 |

【2年 総合的な学習の時間 年間指導計画】

| 学期 | テーマ | 日程 | 時数 | 内容 |
|-----|------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------------|-----------------------------------------------|
| 1学期 | 海のゴミ 職場体験 8時間 (環境) 6時間 | 4月 | 1 | ・中学校2年生の私 (キャリアノート p.42) |
| | | 5月 | 1 1 | ・干潟の生物と海のごみ ・観察会 |
| | | 6月 | 1 | ・事前学習 |
| | | | 2 | ・ビーチクリーン |
| | | | 1 | ・振り返り, 事後学習 |
| | | | 1 | ・オリエンテーション (キャリアノート p.45) |
| | | | 1 | ・地域産業調べ |
| | | | 1 | ・体験先事業所調べ |
| | | | 1 | ・社会人としてのマナー練習 |
| | | 1 | ・質問づくり, 事前打ち合わせ準備 | |
| 1 | ・事前訪問 | | | |
| 7月 | 1 1 | ・前日指導 (心構えと個人目標の設定) ・職場体験 (2日間) ・振り返り, 礼状書き | | |
| 2学期 | 職場体験 修学旅行 23時間 まとめ6時間 わがまち中津PR 大作戦6時間 | 9月 | 3 | ・発表用スライド作成 (グループでの共有, 発表用スライド構成, スライド原稿作成) |
| | | | 1 | ・リハーサル |
| | | | 2 | ・本番発表・振り返り (キャリアノート p.46) |
| | | | 1 | ・修学旅行スローガン発表 |
| | | | 1 | ・班発表, 係分担 |
| | | 10月 | 1 | ・係会議 |
| | | | 3 | ・見学地調べ, 発表 |
| | | | 5 | ・自主研修コース決め |
| | | 11月 | 2 | ・隊形練習 |
| | | | 3 | ・班会議, 係会議 ・しおり読み合わせ ・事前指導 |
| 3 | ・修学旅行 (3日間) | | | |
| 3 | ・振り返り, 旅行学習新聞づくり | | | |
| 12月 | 3 | ・京都の魅力を伝えるモデルコースのスライド作成 ・リハーサル | | |
| | 1 | ・1年生に向けてプレゼン発表 | | |
| | 1 | ・中津をPRできるものを考える | | |
| 12月 | 2 | ・紹介するものをどのようにPRするか考え, 調べ | | |
| | 2 | ・PRの構成を考え, 決定する | | |
| | 1 | ・2学期の終わり (キャリアノート p.44) | | |
| 3学期 | わがまち中津PR 大作戦 10時間 | 1月 | 4 | ・CM (PR) を作成する (訪問予約・撮影含む) |
| | | | 2 | ・より高い効果のPRに向けて再編集 |
| | | | 1 | ・発表リハーサル |
| | | 2月 | 1 | ・学級内発表, 学級代表決定 |
| | | | 1 | ・校内コンテスト |
| | | | 1 | ・全体振り返り |
| 3月 | 1 | ・2年生を振り返って (キャリアノート p.48-49) | | |

租税教育
(ごみ関係)

租税教育
(勤労と納税の関係)

租税教育
(中津市の税の使い道)

【2年 総合的な学習の時間 単元計画】

単元名 私たちの「まち」で働く～仕事を通して自己の生き方を考える～

1 単元の目標

地域の仕事や、その仕事に取り組む人々に関する探究的な学習を通して、働くことの意味と自分自身の生き方との関わりに気づき、働くことの意味や地域産業の活を深く考えるとともに、今後の学習や生活のあり方に積極的に生かすことができるようにする。

2 評価計画

| 観 点 | 三つの力 | 評 価 規 準 | 評 価 方 法 |
|---------------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 知識・技能 | 聴く (Input) | <ul style="list-style-type: none"> 地域の産業を調べ、資料や映像などから地域の特色を読み取ることができる。 体験先の業務内容を調べ、どのような仕事か理解し、体験に活かすことができる。 働くことについて考える学習が、将来の職業選択だけではなく、自分自身の生き方と深いつながりがあることを理解している。 | 観察記録 ワークシート |
| 思考・判断・表現 | 考える (Think) | <ul style="list-style-type: none"> 調べた情報や体験した内容を比較・整理し、根拠をもって自分の意見をつくることができる。 | まとめシート |
| | 表現する (Output) | <ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容を整理し、聴き手を意識して分かりやすく表現することができる。 | 発表・スライド |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 聴く (Input) | <ul style="list-style-type: none"> 事業所の方々や仲間の話を丁寧に聴こうとしている。 事業所の方々の働く姿勢や心構えから働くことの大切さを学びとろうとしている。 課題解決に向けて意欲的に活動している。 | 振り返りシート お礼状 |

3 単元の計画

| 時 | 内 容 | 育てる力 | 主な学習活動・ねらい |
|--------------|-----------------|---------------------|-----------------------------|
| 第1時 | オリエンテーション・目的の確認 | 思考判断 (T) | なぜ職場体験を行うのか、自分の進路との関わりを考える。 |
| 第2時 | 地域産業について調べる | 聴く (I) 考える (T) | 中津の産業を調べ、資料や映像から地域の特色を読み取る。 |
| 第3時 | 事業所について調べる | 聴く (I) 考える (T) | 体験先の業務内容を調べ、仕事を理解する。 |
| 第4時 | 社会人としてのマナー練習 | 聴く (I) 考える (T) | あいさつ、言葉遣い、礼儀作法を身につける。 |
| 第5時 | 質問・事前打ち合わせ準備 | 聴く (I) 表現する | 事業所の方に聞きたいことを考え、準備をする。 |
| 第6時 | 事前打ち合わせ | 聴く (I) 表現する | 事業所を訪問し、必要なことを尋ね、体験に備える。 |
| 第7時 | 心構えと個人目標の設定 | 考え (T) 表現 (O) | 体験のめあてを決め、学びたいことを言葉にする。 |
| 体験当日 | 実地体験 | (I) (T) (O) | 実際に働く現場で観察し、行動する |
| 第8時 | 振り返り記入 | 考える (T) | 自分の経験から得たこと、感じたことを深く振り返る。 |
| 第9時 | グループでの共有 | 聴く (I) 表現する (O) | 他者の体験に耳を傾け、自分の考えを伝える練習をする。 |
| 第10時 | 発表用スライド構成 | 考える (T) 表現する (O) | 自分たちの体験や学びをどう伝えるかを整理・構成する。 |
| 第11時 | スライド・原稿作成 | 表現する (O) | 写真や文章を使って相手に伝わる工夫をする。 |
| 第12時 | リハーサル | 聴く (I) 表現する (O) | 互いに発表を聴き合い、意見を伝えて発表を磨く。 |
| 第13時 第14時 | 本番発表 全体振り返り | 考える (T) 表現する (O) | 活動全体を振り返り、自分の今後はどう活かすかを考える。 |

【3年 総合的な学習の時間 年間指導計画】

| 学期 | テーマ | 日程 | 時数 | 内容 | |
|---------------|---------------------------|---------------------|-----------------------|-----------------------------------------------------------|--------------|
| 1学期 (23時間) | 高校調べ (進路)・海のごみ (環境) | 4月 | 1 | ・キャリアノート | |
| | | 5月 | 1 | ・人権（職業差別について知る） | |
| | | | 1 | ・自分の将来の希望を確かめる | |
| | | | 1 | ・自分の進路について考える、アンケート調査 | |
| | | | 1 | 「高校調べ」概要説明、グループ分け | |
| | | | | 1 | ・海についての講話 |
| | | 6月 | 4 | ・各校調べ学習、スライド作り | |
| | | | 1 | ・高校ごとに質問事項の整理、役割分担 | |
| | | | | 1 | ・ビーチクリーン事前学習 |
| | | | | 2 | ・ビーチクリーン |
| | | 1 | ・ビーチクリーン振り返り | | |
| 7月 | 4 | ・ようこそ先輩 | | | |
| | 2 | ・ようこそ先輩振り返り、スライド再編成 | | | |
| | 1 | ・高校調べ発表会、振り返り | | | |
| | 1 | ・キャリアノート | | | |
| 2学期 (24時間) | ふるさと中津のまちづくり・学級団結宣言 | 8月 | 1 | ・目的の確認学びの積み上げを確認し、単元の見通しをもたせる | |
| | | 9月 | 1 | ・課題を主体的に設定することができるようにする | |
| | | | 1 | ・課題から選んだプレゼンテーマについて意見をまとめる | |
| | | | 1 | ・多様なアイデアを創出させる | |
| | | | 1 | ・テーマをまとめ直し、スローガンを決める① | |
| | | | 1 | ・根拠ある方策を考察させる | |
| | | | 1 | ・テーマをまとめ直し、スローガンを決める② | |
| | | | 1 | ・公共的視点に気づかせる | |
| | | | 1 | ・まちづくりの内容をまとめなおし、客観視させる | |
| | | 10月 | 1 | ・地域の課題や解決の方向性に触れる視野を広げさせ、 耶馬溪にて地域の方から課題や取組について情報を集めさせる | |
| | | | 1 | ・情報を共有・整理する力を養わせ、課題を焦点化させる | |
| | | | | 4 | ・発表を練らせる |
| | | 11月 | 1 | ・発表を練らせる | |
| 1 | ・表現の工夫を相互に学ばせる／目標に立ち返らせる | | | | |
| 1 | ・ブラッシュアップさせる | | | | |
| | | 1 | ・学習を自己の生き方や地域参画に結びつける | | |
| 12月 | 3 | ・人権学習（水平社） | | | |
| | 1 | ・キャリアノート | | | |
| 3学期 (6時間) | 中学校生活を振り返る | 1月 | 1 | ・キャリアノート | |
| | | | 2 | ・平和授業 | |
| | | 2月 | 2 | ・性教育 | |
| 1 | ・キャリアノート | | | | |

租税教育
(租税や補助金の使い道について)

【3年 総合的な学習の時間 単元計画】

単元名 高校調べ～自分を見つめなおし、進路を考える～

1 単元の目標

中学卒業後の幅広い進路情報を知り、自分を見つめて、目指すべき自己の将来像を描くことができるようにさせ、進路選択を進めるにあたって、自分自身の課題を知り、今後どのように学習に向かい、生活すべきかを考えさせる。

2 評価計画

| 観 点 | 三つの力 | 評 価 規 準 | 評 価 方 法 |
|---------------|------------------|---------------------------------------------------|-----------------------------|
| 知識・技能 | 聴く (Input) | ・先生方や先輩方、仲間の話を丁寧に聴いている。 ・自分の問いに向かって意欲的に活動している。 | 観察記録 ワークシート 振り返りシート |
| 思考・判断・表現 | 考える (Think) | ・調べた情報を比較・整理し、根拠をもって自分の意見をつくっている。 | 話し合い記録 ワークシート 振り返りシート |
| | 表現する (Output) | ・伝えたい内容を整理し、聞き手を意識して分かりやすく表現している。 | 発表 パワーポイント |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 聴く (Input) | ・先生方や先輩方のお話を丁寧に聴こうとしている。 | ワークシート 振り返りシート |

3 単元の計画

| 時 | 内 容 | 育てる力 | 主な学習活動・ねらい |
|---------|----------------------|---------------------|--------------|
| 第1時 | 人権 | 聴く (I) 考える (T) | 職業差別について知る |
| 第2時 | 自分の将来の希望を確かめる | 考える (T) | 高校の種類について知る |
| 第3時 | 自分の進路について考える、アンケート調査 | 考える (T) | 気になる高校を調べ・知る |
| 第4時 | 「高校調べ」概要説明、グループ分け | 聴く (I) | 概要説明 |
| 第5～8時 | 調べ学習、スライド作り | 聴く (I) 考える (T) | 調べ学習・スライド作成 |
| 第9時 | 高校ごとに質問事項の整理、役割分担 | 聴く (I) 考える (T) | 質問事項を考える |
| 第10～13時 | ようこそ先輩 | 聴く (I) 考える (T) | 先生方や先輩方の話を聞く |
| 第14～15時 | スライド再編成 | 考える (T) 表現する (O) | スライドの再編成 |
| 第16時 | 発表会、まとめ、振り返り | 聴く (I) 表現する (O) | 学習を通してのまとめ |

(2) 関連する各教科の単元計画及び指導案

第 I 学年英語科学習指導案

1 単元名「Program4 Let' s Enjoy Japanese Food.」

2 単元目標

- (1) 自分と相手以外の人やものについての言い方を理解し、伝え合うことができる。(知識および技能)
- (2) 身近な食べ物の特徴を考え、スリーヒントクイズを作ることができる。(思考・判断・表現)
- (3) 【租税教育の視点】：日本の食文化は他国の料理を独自にアレンジして進化させたり、反対に日本の料理が海外で独自に進化していることなどに対する理解を深めたりして、日本が食を通して他国と協調していることを自覚し、積極的に英語で説明することができる。(知識および技能) (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元構想図

| 内容・ねらい | 評価基準・評価方法 | | |
|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 第一次（2時間） ・ This 【That/ It】 is～.（肯定文・否定文・疑問文）の用法を理解し、自分のお気に入りのものを友達ちに伝える。 | ・ This is～.や That is～. の意味や働きを理解している。 ・ This is～.や That is～. の意味や働きをもとに、自分と相手以外の人や物について伝え合う技能を身につけている。 I・T・O | | ・ 自分と相手以外の人や物について主体的に英語を用いてやり取りしようとしている。 I・T・O |
| ・ who の疑問文や人称代名詞の用法を理解し、友人や先生、家族などに関するクイズを出し合う。 | ・ Who～?や He is～. の意味や働きを理解している。 ・ Who～?や He is～. の意味や働きをもとに、友人や先生、家族について伝え合う技能を身につけている。 I・T・O | | 友人や先生、家族について主体的に英語を用いてやり取りしようとしている。 I・T・O |
| 第二次（2時間） ・ 日本で生まれた料理について知る。 ・ きつねうどんの名前の由来について正 | ・ 「Turning in」を通して日本で生まれた料理や海外で独自に進化している料理について理解している。 | ・ きつねうどんの名前の由来についての英文を正しく読み取ることができる。 I・T・O | きつねうどんや茶わん蒸しなどの日本食についての英文の要点をとらえようとしている。 I・T・O |

| | | | |
|----------------------------------------------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| しく読み取る。 | ① T・O | ・きつねうどんや茶わん蒸しなどの日本食について英語で説明をすることができている。I・T・② | |
| 第三次（2時間） 写真や絵を使って、本文の内容を振り返る。 食べ物に関するスリーヒントクイズをする。 | | ・食べ物についてのクイズを作るために、簡単な語句や文などを用いて書いている。 I・T・② ・相手が回答しやすいように、食べ物の色などの特徴をわかりやすく説明し、クイズとして出題している。 I・T・② | ・食べ物についてのクイズを作るために、簡単な語句や文などを用いて書いたり、相手が回答しやすいように、食べ物の色などの特徴をわかりやすく説明し、クイズとして出題しようとしている。 I・T・② |

4 本時の学習

(1) 本時の目標

| |
|-------------------------------------------------------------------|
| A【学習内容】 食べ物の特徴について |
| B【学習活動】 教科書のクイズと比較しながら、スリーヒントクイズを作る活動を通して【T】 |
| C【育成を目指す資質・能力】 This is～. It' s～.を使って書いたりたずねたりすることができるようにする。【O】 |

(2) 評価規準

食べ物についてのクイズを作る活動について、その色や特徴をわかりやすく説明する英文を簡単な語句や文などを用いて書いている。

【思考・判断・表現】

食べ物についてのクイズを作る活動について、相手が回答しやすいように食べ物の色などの特徴をわかりやすく説明し、クイズとして出題しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

| 学習活動 | 指導及び支援 | 時間 | 評価 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------|
| 1. 挨拶 前時の振り返り | <p>○学習リーダーによる前時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付や曜日などの毎回行うやりとりと、既習の文法事項を使ったやりとり、または新出単語の練習など、その都度学習リーダーに考えさせて行う。 | 5 | |
| 2. 本時の学習内容を確認する。 | <p>《めあて》食べ物の特徴を考えてスリーヒントクイズを作ろう。</p> | | ワークシートの記述内容 【思・判・表】 |
| | <p>○前時で行った who の学習を振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有名人やアニメのキャラクターなどのクイズ Who is this man? He is a singer. He is cool. Who is he? | 5 | |
| 3. クイズを作る | <p>○クイズの作り方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書のチャートをたどりながら、内容とクイズのやり方を確認する。 <div data-bbox="427 994 1109 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>キーワード This is～ . It' s～ . What is it?</p> </div> <p>○クイズを作らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に示されている果物の写真から1つ選び、ヒントとなる特徴（分類、形、色、サイズ、味など）を3つ英語で書かせる。 ・個人で2つ程度作らせ、班で出題し合う。 ・班の中でベストクイズを選ばせる。 ・ベストクイズに選ばれた人はクラスのクイズ大会で発表させる。 | 25 | 班活動の様子 ロイロノートでの記述内容 【思・判・表】 班活動の様子 【主体学】 |
| 4. まとめと振り返り | <p>○作ったクイズをロイロノートに提出させる。</p> <p>○振り返りをワークシートに書かせる。</p> | 10 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの作った英文：This is a fruit. It' s yellow. It' s long. What is it? ・友だちのクイズを聞いて、よく特徴をとらえていると思った。 ・特徴はすぐに思いついたが、英語にするのが難しかった。 </div> | | | |

第 1 学年数学科学習指導案

1 単元名 比例・反比例

2 単元の目標

- (1)関数関係や座標の意味、比例、反比例について理解し、比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。
- (2)比例、反比例としてとらえられる 2 つの数量について調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだしたり、比例、反比例を使って具体的な事象をとらえ考察し表現したりできる。
- (3)比例、反比例のよさに気づいて粘り強く考え、比例、反比例について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、比例、反比例を使った問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりしている。
- (4)【租税教育の視点】：表やグラフ、数値を用いて表現する力を高める。

3 評価計画

| 観 点 | 三つの力 | 評 価 規 準 | 評 価 方 法 |
|---------------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| 知識・技能 | 聴く (Input) | ① 関数関係の意味を理解している。 ② 比例、反比例について理解している。 ③ 座標の意味を理解している。 ④ 比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。 | 行動観察 ワークシート 振り返りシート |
| 思考・判断・表現 | 考える (Think) 表現する (Output) | ① 比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ② 比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 | 行動観察 ワークシート 振り返りシート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 聴く (Input) 表現する (Output) | ① 比例、反比例のよさに気付いて粘り強く考え、比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。 | 行動観察 ワークシート 振り返りシート |

4 単元の計画

| 時 | 内 容 | 育てる力 | 主な学習活動・ねらい |
|-------|-----------------------|----------|--------------------------------------------------------|
| 第 1 時 | レディネステストを行う。 | 考える (T) | 小学校「比例と反比例」の復習をする。 |
| 第 2 時 | 具体的な事象の中から関係について説明する。 | 聴く (I) | 具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出し、その変化や対応を考察し見いだした関係について説明する。 |
| 第 3 時 | 不等号を使って表す。 | 聴く (I) | 前時の二つの数量関係を基に、事象における変数の変域を考え、不等号を使って表す。 |
| 第 4 時 | にある二つの数量を見だし説明する。 | 表現する (O) | 日常事象で、関数関係にある二つの数量を見だし説明する。 |
| 第 5 時 | 比例の意味について考え、説明する。 | 考える (T) | ある事例(負の変域まで拡張)を基に、比例の意味について考え、説明する。 |

| | | | |
|------|----------------------------|---------------------|-------------------------------------------------------------|
| 第6時 | 比例定数が負の数の場合もあることを理解する。 | 聴く (I) | 比例には、比例定数が負の数の場合もあることを理解する。 |
| 第7時 | 比例の式を求める。 | 考える (T) | y が x に比例するとき、対応する1組の x 、 y の値から、比例の式を求める。 |
| 第8時 | 座標の意味を理解する。 | 聴く (I) | 囲碁盤等を活用し、軸を決めて説明する活動などを通して、座標の意味を理解する。 |
| 第9時 | 比例のグラフをかく。 | 表現する (O) | 座標の考え方をを使って比例のグラフをかく。(比例定数が分数、小数、負の数のグラフもかく) |
| 第10時 | 比例のグラフにおいて比較する。 | 聴く (I) | 比例のグラフにおいて、比例定数の絶対値が同じ正の数と負の数の場合をかき、比較する。 |
| 第11時 | いろいろな問題を解く。小単元末テストを行う。 | 考える (T) | 比例の関係を表、式、グラフなどで表すいろいろな問題を解く。小単元末テストを行う。 |
| 第12時 | 反比例の意味について考え、説明する。 | 表現する (O) | ある事例(負の変域まで拡張)をもとに、反比例の意味について考え、説明する。 |
| 第13時 | 比例定数が負の数の場合もあることを理解する。 | 聴く (I) | 反比例には、比例定数が負の数の場合もあることを理解する。 |
| 第14時 | 反比例の式を求める。 | 考える (T) 表現する (O) | y が x に反比例するとき、対応する1組の x 、 y の値から、反比例の式を求める。 |
| 第15時 | グラフをかく。 | 考える (T) 表現する (O) | 座標の考え方をを使って反比例のグラフをかく。 |
| 第16時 | 反比例のグラフにおいて比較する。 | 考える (T) 表現する (O) | 反比例のグラフにおいて、比例定数の絶対値が同じ正の数と負の数の場合をかき、比較する。 |
| 第17時 | いろいろな問題を解く。小単元末テストを行う。 | 考える (T) | 反比例の関係を表、式、グラフなどで表すいろいろな問題を解く。小単元末テストを行う。 |
| 第18時 | 表、式、グラフを用いて問題を解決する方法を説明する。 | 考える (T) 表現する (O) | 投影距離と投影画面の幅の関係について比例の関係があるとみなして、表、式、グラフを用いて問題を解決する方法を説明する。 |
| 第19時 | 反比例と捉えられる理由を説明する。 | 考える (T) 表現する (O) | ランドルト環等の具体的な事象を、表や式、グラフを用いて反比例と捉えられる理由を説明する。 |
| 第20時 | 全国学力・学習状況調査問題を解く。 | 考える (T) | 全国学力・学習状況調査問題を教材として、式やグラフを用いて考察し、問題を解決する。 (平成27年度数学B1など) |
| 第21時 | いろいろな問題を解く。 | 考える (T) | 比例、反比例を活用したいろいろな問題を解く。 |
| 第22時 | 単元末テスト | 考える (T) | 単元末テスト |

5. 本時の学習

(1) 題目 比例と反比例の利用

(2) 本時のねらい

| |
|------------------------------------------------------------|
| A【学習内容】 具体的な事象から取り出した投影距離と投影画面の幅の関係について |
| B【学習活動】 理想化, 単純化して, 比例とみなし, 自分の考えと他者の考えを比較する活動を通して【I・T】 |
| C【育成を目指す資質・能力】 問題解決の方法を過不足なく説明することができるようにする。【O】 |

(3) 評価規準

比例, 反比例として捉えられる二つの数量について, 表, 式, グラフなどを用いて調べ, それらの変化や対応の特徴を見だし表現することができる。【思考・判断・表現】

(4) 展開

| 学習活動 | 指導・支援の留意点 | 時間 | 評価 | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|------|------|------|------|------|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|----|--|
| <p>1. 本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比例 ・$y = ax$ ・2倍, 3倍 ・直線 ・表 ・式 ・グラフ </div> | <p>○これまでの学習を振り返りながらめあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>問題: Aさんは, マルチルームの壁板4枚をスクリーンとして映像を映し出したいと考えています。</p> <p>Aさん「映し出したい画面の幅は4.3m なんだけど, 投影距離を何m にすれば良いのかな?」</p> <p>Bさん「投影画面をスクリーンからはみ出さないようにして, できるだけ大きく映し出したいんだよね。そのためには, の方法で求めると分かるよ。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>《めあて》プロジェクターからスクリーンまでの距離と画面の幅について, 関係を調べ投影距離の求め方を説明しよう</p> </div> <p>○問題を解決するために必要な情報を与える。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>x: 投影距離(m)</td> <td>0.16</td> <td>0.32</td> <td>0.48</td> <td>0.64</td> <td>0.80</td> </tr> <tr> <td>y: 投影画面の幅(m)</td> <td>0.3</td> <td>0.6</td> <td>0.9</td> <td>1.2</td> <td>1.5</td> </tr> </table> <p>※グラフ省略</p> <p>○距離を決めると幅が1つだけに決まるので, 関数関係であることを確認する。</p> <p>○表や座標から, 変化の様子や対応についてわかったことを伝え合わせる。</p> | x : 投影距離(m) | 0.16 | 0.32 | 0.48 | 0.64 | 0.80 | y : 投影画面の幅(m) | 0.3 | 0.6 | 0.9 | 1.2 | 1.5 | 10 | |
| x : 投影距離(m) | 0.16 | 0.32 | 0.48 | 0.64 | 0.80 | | | | | | | | | | |
| y : 投影画面の幅(m) | 0.3 | 0.6 | 0.9 | 1.2 | 1.5 | | | | | | | | | | |
| <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな関係になっているか→距離が2倍, 3倍, . . .の時, 幅も2倍, 3倍になっている。 ・$\frac{y}{x} = a$ で一定になっている。 | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>○与えた情報から、投影距離と投影画面の幅の関係について考えさせる。(理由の説明)</p> <p>○捉えた比例の関係をもとに最適な投影距離について、比例のグラフをどのように用いていけばよいか話し合わせる。</p> <p>○与えられた問題解決の情報では不足しているため、全体のグラフを与える。</p> | | |
| <p>2. 本時の課題を確認する</p> <p>3. 問題に取り組む【個→班→全体】</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>《課題》書き込んだ比例のグラフをどのように読み取れば投影距離を求められるだろうか</p> </div> <p>○説明文を考え交流させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求め方について方法の説明を意識させる。 <p>○個で考えたあと、班(4人)で交流させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の説明文をホワイトボードに書く。 ・交流活動の流れを確認する。(ワールドカフェ形式) <p>○班内で前半と後半に分かれ、1回目の説明活動をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に前半の人が残り、他の班に説明する。後半の人は、他の班の発表を聞きに行く。 <p>○班に戻り、自分たちの説明分をブラッシュアップさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訂正する際、最初の説明分は消さず、赤字で加筆する。 <p>○2回目の説明活動をさせる。</p> <p>○班に戻り、2回目のブラッシュアップをさせる。</p> <p>○全体交流をする。</p> | <p>25</p> | <p>【思考・判断・表現】 比例，反比例として捉えられる二つの数量について，表，式，グラフなどを用いて調べ，それらの変化や対応の特徴を見だし表現することができる。 (プリント) 個①</p> |
| <p>4. まとめ</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>《まとめ》書き込んだ比例のグラフから y 座標が 4.3 の時の x 座標を読み取ればよい。</p> </div> <p>○実際にプロジェクターを設置し投影してみる。</p> | <p>5</p> | |

| | | | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5. 振り返り | <p>○問題解決の方法について振り返りをさせる。</p> <p>○関数として捉えることのよさについて振り返りをさせる。</p> | 5 | |
| 6. 適応問題 | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【予想される生徒の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の関係であれば，グラフの座標を読むことで投影距離を知ることができる。 ・ 関数関係であれば，実際に図らなくても計算や読み取りで距離を知ることができるので役立つことが分かった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>問題： Bさんは，来週行われる長縄大会に向けて，チームの仲間と長縄の練習をしています。</p> <p>長縄大会本番は，300秒で何回跳べたかを競います。</p> <p>下の表は6回の練習での記録をまとめたものです。</p> <p>この練習のペースで1度も失敗せずに跳べたとすると，「300秒間でおよそ何回跳べるか」を求める方法を説明しなさい。</p> </div> | 5 | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>比例，反比例として捉えられる二つの数量について，表，式，グラフなどを用いて調べ，それらの変化や対応の特徴を見だし表現することができる。</p> <p>(プリント)</p> <p>個②</p> |

第 2 学年理科学習指導案

1 単元名 さまざまな化学変化

2 単元の目標

- (1) 化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、2種類の物質が結びつく化学変化や化学変化における酸化と還元、化学変化と熱についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。
- (2) 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化を見いだして表現すること。
- (3) 化学変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
- (4) 【租税教育の視点】：観察・実験の器具を大切に使用し、グループの研究活動を通して協力する態度を育てる。

3 単元構造図

| 小単元 | 時 | 学習内容 | 評価規準・評価方法 |
|-----------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 物質の成り立ち | 7 | どら焼きやカルメ焼きがふくらむ原因を確かめ、次の実験の実験方法を考える。 | 【思・判・表】 炭酸水素ナトリウムの加熱による変化について、見通しをもって解決する方法を立案することができる。 (<input type="radio"/> T <input type="radio"/>) |
| | | 炭酸水素ナトリウムを加熱する実験を行い、発生した物質を調べる。 | 【主】 硫黄による鉄の変化についての問題に進んで関わり、見通しをもつなど、科学的に探究しようとする。 (<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/>) |
| | | モデルを用いて前時の実験の振り返りを行い、炭酸水素ナトリウムを加熱した際の化学変化について理解する。 また、他にも加熱によって別の物質になるものとして、酸化銀を例に挙げ次の授業の実験の準備を行う。 | 【思・判・表】 実験結果を分析・解釈し、鉄と硫黄の混合物を加熱すると別の物質ができることを、論理的に説明することができる。 (<input type="radio"/> T <input type="radio"/>) |
| | | 酸化銀を加熱する実験を行い、発生した物質を調べる。 | 【主】 酸化銀を加熱した際の変化についての問題に進んで関わり、見通しをもつなど、科学的に探究しようとする。 (<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/>) |

| | | | |
|--------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | <p>モデルを用いて前時の実験の振り返りを行い、酸化銀を加熱した際の化学変化について理解する。 また、熱分解以外に物質を分解できる方法はないか考える。</p> | <p>【知・技】 物質どうしが結びつく変化や分解などの化学変化について、原子・分子のモデルや化学反応式を用いて表す方法を身につける。 (I T O)</p> |
| | | <p>水の電気分解の実験を行い、発生した物質を調べる。</p> | <p>【主】 水が分解するとどうなるかという問題に進んで関わり、見通しをもつなど、科学的に探究しようとする。 (I T O)</p> |
| | | <p>モデルを用いて前時の実験の振り返りを行い、水の電気分解について理解する。 第1章の振り返りを行う。</p> | <p>【知・技】 実験結果を分析・解釈し、電気分解について説明することができる。 (I T O)</p> |
| 2 物質の表し方 | 1 | <p>化学反応式の作り方について理解し、化学反応を化学反応式で表す力を身に付ける。 第2章の振り返りを行う。</p> | <p>【思・判・表】 物質が酸化される化学変化を原子・分子のモデルと関連づけながら、化学反応式で表すことができる。 (I T O)</p> |
| 3 ささまざまな化学変化 | 9 | <p>鉄と硫黄の混合物を加熱する実験を行い、反応後にできた物質について調べる。</p> | <p>【主】 鉄と硫黄の混合物を加熱した際の変化についての問題に進んで関わり、見通しをもつなど、科学的に探究しようとする。 (I T O)</p> |
| | | <p>前時の実験の振り返りを行い、物質同士が結びつく化学変化をモデルや化学式で表せるようにする。</p> | <p>【思・判・表】 酸化銅の還元実験の結果を、原子・分子のモデルを使って考察し表現できている。 (I T O)</p> |
| | | <p>マグネシウムを燃やす実験を行い、酸化について学習する。 また、酸化物から酸素を取り除く反応はないのか考える。</p> | <p>【思・判・表】 物質が酸化される化学変化を原子・分子のモデルと関連づけながら、化学反応式で表すことができる。 (I T O)</p> |
| | | <p>酸化銅と活性炭を混ぜて加熱する実験を行い、反応後にできた物質について調べる。</p> | <p>【主】 酸化銅と活性炭を加熱した際の変化についての問題に進んで関わり、見通しをもつなど、科学的に探究しようとする。 (I T O)</p> |
| | | <p>前時の実験の振り返りを行い、還元について理解する。 また、酸化と還元は物質間の酸素のやり取りという観点で理解する。</p> | <p>【知・技】 金属酸化物の還元や、酸化がどのような化学変化であるかを説明することができる。 (I T O)</p> |

| | | | |
|--------------|---|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 化学かいろと簡易冷却パックをつくる実験を行い、化学変化と熱の出入りについて調べる。 | 【主】 化学かいろと簡易冷却パックの化学変化における熱の出入りについての問題に進んで関わり、見通しをもつなど、科学的に探究しようとする。 (<input checked="" type="radio"/> T O) |
| | | 化学かいろを早く発熱させるためにはどうしたらよいか、実験方法を考える。 | 【主】 化学変化と熱の出入りの関係について、見通しをもって課題を解決する方法を立案し、科学的に探究しようとする。 (<input checked="" type="radio"/> T O) |
| | | 【本時】 前時で考えた実験を行い、早くかいろを発熱させるには、何がひつようなのか調べる。 | 【思・判・表】 自ら立案した実験を行い、その結果を分析して解釈し、課題を解決するなど、科学的に探究しようとする。 (<input checked="" type="radio"/> T O) |
| | | 第3章の振り返りを行う。 | 【主】 章の学習を通して、自身の変容に気づくことができる。 (I <input checked="" type="radio"/> O) |
| 4 化学変化と物質の質量 | 4 | 炭酸ナトリウムと塩酸を反応させる実験を行い、化学変化の前後での物質の質量について調べる。 | 【主】 温度が変化する化学変化についての問題に進んで関わり、見通しをもつなど、科学的に探究しようとする。 (<input checked="" type="radio"/> T O) |
| | | 銅を加熱する実験を行い、銅と酸素が結びつくときの質量の関係について、規則性があるのか調べる。 | 【知・技】 質量保存の法則について理解する。 (<input checked="" type="radio"/> T O) |
| | | 前時の実験の振り返りを行い、金属と結びつく酸素の量に規則性があることを理解する。また、化学変化と質量の計算を行う。 | 【思・判・表】 実験結果を分析・解釈し、化学変化における物質の質量の関係を見だし表現している。 (<input checked="" type="radio"/> T O) |
| | | 第4章の振り返りを行う。 | 【主】 章の学習を通して、自身の変容に気づくことができる。 (I <input checked="" type="radio"/> O) |

4 本時案

(1) 題目 発熱反応

(2) 本時のねらい

・化学かいろを早く発熱させる方法について、自ら考えた実験を行い、その結果を分析・解釈し、課題を解決する活動をとおして、科学的に探究しようとする。【 I・O 】

(3) 評価基準

自ら立案した実験を行い、その結果を分析して解釈し、課題を解決するなど、科学的に探究しようとする。

(4) 展開

| 学 習 活 動 | 時間 | 指導上の留意点 | 評価 |
|-------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 1. めあて・課題・本時の流れの確認を行う。 | | ○前時と同じめあて・課題を使用する。 (ワークシートについても前時と同じものを使用する) ○学習リーダー(クラスの代表)に読み上げてもらう。 | |
| めあて 化学かいろの発熱の速さについて調べよう。 | | | |
| 課題 化学かいろを早く発熱させるにはどうすればよいだろうか？ | | | |
| キーワード 塩化ナトリウムの濃度、混ぜる速さ、 | | | |
| 2. 前時に行った発熱反応について復習を行う。 | 5分 | ○化学かいろが発熱する仕組みについて、確認しておく。 ○注意事項についても確認しておく。 | |
| 3. 班で考えた実験を行い、化学かいろを早く発熱させる方法について確かめる。 班ごとに結果と考察をまとめておく。 | 20分 | ○実験を行う際は、前時で決めておいた役割分担(学習リーダー(発表)1人、記録2人、作業2人)で進めていく。 ○考察をまとめることが、難しい生徒には、話型を用意しておき、話型にそってまとめるよう指示する。 | 【思・判・表】 自ら立案した実験を行い、その結果を分析して解釈し、課題を解決するなど、科学的に探究しようとする。 (行動記録,ワークシート) |
| 3. 実験結果と考察を全体で共有する。 | 10分 | ○発表者についても事前に決めておく。(学習リーダー) ○発表の仕方がわからない生徒には、話型を示し、話型をもとに発表するよう指示する。 | |
| 4. 全班で共有した実験結果を踏まえて、化学かいろを早く発熱するためにはどのようにしたらよいか考える。 | 7分 | ○この結果が信用性のあるものなのか、深く考えさせる。 班ごとに、実験するうえで異なることはないのかなどを考えさせ、より正確な結果を得るためにはどのようにするべきか、考えさせる。(混ぜる速さ、混ぜた時間など) | |
| 5. まとめを行う。 | | ○課題に対するまとめを行わせる。 班ごとにまとめの内容が変わる。 | |

| | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| | | | |
| <p>まとめ</p> <p>(例 塩化ナトリウム水溶液の濃度を上げる)</p> <p>ことで、化学かいろを早くあたためることができる。</p> | | | |
| <p>6. 本時の振り返りを行う。</p> | <p>4分</p> | <p>○ロイロノートで振り返りを行う。</p> <p>○めあてに対する振り返りを行う。</p> <p>○前時の実験方法の立案から振り返らせる。</p> <p>○数人に発表してもらう。</p> | |
| <p>振り返りの視点： 実験を通してどのようなことが分かったか、どのようなことができたのか、さらに疑問に思ったことなどをかく。</p> <p>【例】化学かいろを早く発熱するにはという課題に対して、自分たちで実験方法を考え、その結果をまとめて考察することができ、化学かいろを早く発熱する方法がわかった。化学かいろを長く持たせるにはどうしたらよいのかについても調べたいと思った。</p> <p>以下の項目について、4段階評価で振り返りを行わせる。</p> <p>①課題に対して課題を解決する方法を考えることができた。</p> <p>②積極的に実験に参加することができた。</p> <p>③化学かいろについて、深く理解することができた。</p> | | | |
| | | | |

第2学年音楽科学習指導案

1 単元名 伝統音楽と地域文化

2 単元目標

- (1) 歌舞伎「勸進帳」と中津祇園囃子の特徴を理解し、鑑賞することができる。
(知識及び技能)
- (2) 音楽を支える人々や仕組みに注目し、支え合いの大切さに気付くことができる。
(思考力・判断力・表現力)
- (3) 【租税教育の視点】：学んだことをもとに、郷土や社会に貢献しようとする態度を育む。
(学びに向かう態度)

3 単元構想図

| 内容・ねらい | 評価基準・評価方法 | | |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------------------|
| | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 学びに向かう態度 |
| 第1次 「勸進帳」のあらすじを理解し 「山伏問答」を鑑賞して登場人物の心情や行動の意味について考える。 | | 登場人物の心情や行動の意味について考えることができる。 I ㊦・O | |
| 第2次 中津祇園の特徴と使用される楽器や音楽を学び、祭りの雰囲気や文化との関わりについて理解する。 | 祭りの特色や使用される楽器の特徴を理解している。 ㊦・T・O | | |
| 第3次 歌舞伎と中津祇園の鑑賞を振り返り、自分の印象や感想をまとめて表現することについて考える。 | | | 鑑賞した内容や印象を自分なりに表現し、学びに主体的に取り組むことができる。 I・T・㊦ |

4. 本時のめあて

中津祇園の特色や使用される楽器の特徴を理解し、地域文化との関わりを考えることができる。

【I】

5. 評価基準

祭りの特色や使用される楽器の特徴を理解している。【知識・理解】

6. 展開

| 学習活動 | 指導及び支援 | 時間 | 評価 |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------|
| 1. 前時までの振り返りをする。 | ○歌舞伎「勸進帳」で学んだことを全体で確認する。 | 5分 | |
| 2. 本時の流れ、めあてを確認する。 | | 5分 | |
| 中津祇園の楽器や特色を知り、祭りと地域文化の関わりを考えよう。 | | | |
| 3. 個人で考える。 | キーワードを提示する。 キーワード 祭り、楽器、地域文化 ○中津祇園で使われる楽器の音を聴き、特徴をワークシートにまとめる。 ①どんな音がするか ②どの楽器が使われているのか | 5分 | |
| 4. 班で考える。 | ○個人の意見を交流させ、学習リーダーを中心に一つの意見に絞り出し、各班で発表する。 | 20分 | |
| 5. 全体でまとめる。 | ○各班の発表を聞き、祇園囃子と長唄の違いや祭りの文化的意義を全体で整理する。 | 10分 | |
| 6. 本時の振り返りをする。 | ○めあてに対する振り返りと新たな課題を記入させる。 ・キーワードを使わせる。 | 5分 | ワークシートの記述内容・発言 |

第2学年保健体育科学習指導案

1 単元名 地域の環境の特色や現状を理解し、自他の命を守ろう。

2 単元目標

- (1) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因及びそれらの相互の関りによって発生することを理解できる。(知識及び技能)
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。(思考力・判断力・表現力)
- (3) 自分の経験や仲間との意見交換や資料などをもとにして課題を見つけようとする。(学びに向かう態度)
- (4) 【租税教育の視点】：身近な生活で考えられる事故や災害について学習することを通して、郷土への理解を深め、郷土愛の精神や態度を養う。

3 単元構想図

| 内容・ねらい | 評価基準・評価方法 | | |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------|----------|
| | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 学びに向かう態度 |
| 第1次 傷害の発生要因には、人的要因と環境要因があり、傷害はそれらが相互に関わりあって起こることを理解する。 | 傷害の発生には、要因が相互に関わりあって起こることが理解できる。 ①・T・O | | |
| 第2次 交通事故による傷害は、人的要因、環境要因および車両要因が関り合っ起こることを理解する。 | 交通事故による傷害は、3つ要因が関り合っ起こることが理解できる。 ①・T・O | | |
| 第3次 交通事故による傷害を防ぐには、危険を予測し、安全な行動、環境の改善などを行い、危険を回避する方法を考える。 | | 交通事故による傷害を回避できる方法を考えていることができる。 I・①・O | |
| 第4次 犯罪被害には、人的要因と環境要因が関わり合っており、防止するための方法を考える。 | | 犯罪被害には、回避するための方法を考えていることができる。 I・①・O | |
| 第5次 地震などの自然災害による傷害は、発生直後に起こる一次災害だけでなく、続いて起こる二次災害によっても生じることを理解する。 | 地震などの自然災害による傷害は、一次災害と二次災害によっても生じることを理解できる。 ①・T・O | | |
| 第6次 地震などの自然災害による傷害を防止する方法を考える。 | | 自然災害による傷害の防止について、生活体験や事例などの関係を見つけ、説明できる。◎ | |

| | | | |
|--------------------------------------------------|--|--|--------------------------------|
| 第7次 地域の特色をもとに大きな災害が起こったときの、自助、共助、公助などの方法を考える。 | | | 自助、共助、公助などの方法を考えることができる。 I・㊦・O |
|--------------------------------------------------|--|--|--------------------------------|

4 本時のめあて

自然災害による傷害の防止について、事例についてグループで意見交換する活動を通して、生活体験や事例などの関係を見つけて説明することができる。【O】

5 評価基準

傷害の防止について、自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つめたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。【思考・判断・表現】

6 展開

| 学習活動 | 指導及び支援 | 時間 | 評価 |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------------|
| 1. 前時までの振り返りをする。 | ○自然災害は何かを確認し、それぞれの自然災害で起こりえる二次災害を確認する。 ・地震、大雨、津波、土砂災害 | 3分 | |
| 2. 本時の流れ、めあてを確認する。 | | 2分 | |
| 自然災害が発生する時、危険なことや事例などを根拠に避難の仕方を説明できる。 | | | |
| 3. 個人で考える。 | キーワードを提示する。 キーワード 海が近い、地震、津波、避難 ○二次災害を予測し、避難の方法を考える。 ・海の近くの家に班の人（家族）と住んでいる。近くには高台がある。大きな地震が発生した。最初の津波は大きくなく心配ない。次の①～⑤のことに考え、避難しよう。 ①次に何を心配するか。 ②何を持って避難するか。 ③どこに避難するか。 ④どんなことに注意するか。 ⑤何で情報を得て避難するか。 | 5分 | |
| 4. 班で考える。 | ○個人の意見を交流させ、学習リーダーを中心に一つの意見に絞り出し、各班で発表する。 ○個人、班で考えたことを他の班から聞いてどの意見が本当に良いかを考えながら聞く。 | 15分 | |
| 5. 自分の家での場面を想定して個人で考える。 | ○校区のハザードマップから、地震が発生したときを想定して、①～⑤で考えさせる。 | 15分 | |
| 6. 地震への対応を発表させ、全体で確認する。 | ○海が近い校区で起こる災害への対応を発表させ、避難の仕方を確認する。 | 7分 | |
| 7. 本時の振り返りをする。 | ○めあてに対する振り返りと新たな課題を記入させる。 ・キーワードを使わせる。 | 3分 | ワークシートの記述内容・発言 |

第3学年美術科学習指導案

1 単元名 地域の魅力を伝える

2 単元目標

(知識・技能)

- ・形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解している。
- ・材料や用具を大事に扱い、その特性を生かして意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。【租税教育の視点】
- ・材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら見通しをもって表している。

(思考・判断・表現)

- ・伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。

3 単元構想図

| 内容・ねらい | 評価基準・評価方法 | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <p>第一次（1時間）</p> <p>ポスターやパンフレットを鑑賞し、地域の魅力を再発見する。</p> | <p>形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解している。</p> <p>① T O</p> | | <p>美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>① T O</p> |
| <p>第二次（1時間）</p> <p>自ら決めた主題を基にキャッチコピーを考え、形や色彩などが感情にもたらす効果を理解し構想を練り、アイデアスケッチを制作する。</p> | <p>形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解している。</p> <p>I T ②</p> | <p>伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会とのかかわりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>I T ②</p> | <p>美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>I T ②</p> |
| <p>第三次（3時間）</p> <p>主題をよりよく表現するために色彩や技法を生かし、効果的に表現しポスターを制作する。</p> | <p>材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。</p> <p>材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら見通しを持って表している。③</p> | <p>伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会とのかかわりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>I T ③</p> | <p>美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>I T ③</p> |

4 本時の学習

(1) 題目 地域の魅力を伝えよう (ポスターデザイン)

(2) 本時のめあて

主題を基にキャッチコピーを考え、形や色彩などが感情にもたらす効果を理解し構想を練り、アイデアスケッチを制作することができる。【T・O】

(3) 評価基準

形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解している。【知識・技能】

伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会とのかかわりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。【思考・判断・表現】

(4) 展開

| 学習活動 | 指導及び支援 | 時間 | 評価 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------|
| 1, 本時の活動を確認する | ○学習リーダーによる本時の活動内容説明を行う。 ・前時の学習内容を振り返り、技法や配色など既習事項を確認する。 | 5 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ≪ めあて ≫ 思いを伝える配色や彩色の仕方を考えてアイデアスケッチを作ろう </div> | | | |
| 2. 主題を決める | ○地域の魅力の中から伝えたい主題を決める。 ・実際に参加した行事など自身の経験を基に主題を決定させる。 ・主題を決めるための質問用紙を準備しておく。 | 5 | ワークシートの記述内容 活動の様子 |
| 3. キャッチコピーを考える | ○主題に合うキャッチコピーを考える。 ・「○○な(地域の魅力)」など定型を準備しておく。 | 10 | ワークシートの記述内容 活動の様子 |
| 4. アイデアスケッチを制作する | ・主題を伝えるために合っているのか周囲と確認しあう。 ○アイデアスケッチを考える。 ・ぶらぶらタイムを活用し効果的に表現できているのか自身のアイデアを客観的にみる時間をつくる。 | 20 | ワークシートの記述内容 制作の様子 ぶらぶらタイムでの意見交換の様子 |
| 5. 振り返り | ・活用する技法や色彩を考え、見通しを持って制作に取り組みさせる。 ○制作進度を確認し、本時の学びや気づきを振り返りを記入する ・本時の活動を振り返り次回の活動にいかす。 ・次回の連絡を行う。 | 5 | 振り返りカードの記述内容 |

第3学年道徳科学習指導案

1 主題名 海のごみは「まちなか」で生まれる

2 ねらい

【租税教育の視点】世界規模の課題でも自分ごととして捉え積極的に関わろうとすることが、根本的な解決につながっていくことの自覚を通して、社会の一員としてよりよい社会をつくらうとする態度を育てる。【T・O】

3 学習過程

| | 学習活動・主な発問と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 5分 | <p>1 地球規模の問題について考える。 (発問) まちなかや自然の中に落ちているごみについて、何か感じたり、考えたりしたことはあるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にきにしたことはない ・家や家族では拾うこともある <p>【学びのキーワード】「社会全体で考える」ときに大切なことは何だろう。</p> | <p>○何か思いや体験がある生徒がいれば共有する。ごみ問題に関する生徒の知識や意識、姿勢を確認しておく。</p> |
| 展開 40分 | <p>2 教材「海のごみは『まちなか』で生まれる」を読み、考える (発問①) よく遊んでいた美しい海岸をおじさんたちが守ってくれていたことを知った「私」は何を感じただろう。(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがたい ・ずっと続けてきたなんてすごい。 <p>(発問②) 清掃活動が始まった当初からずっと参加しているおじさんの原動力はなんだろう。(ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ活動をしているなかまの存在。 ・社会に貢献できる喜び。 <p>(中心発問③) 「ごみを減らす活動」に参加したいと答えながら、多くの人が活動について知らなかったり、活動が行われていなかったりするのはどうしてだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それほど真剣に考えていないから。 ・自分は困っていないから。 ・他人ごととして、誰かがなんとかしてくれると思っているから。 <p>(発問④) 私たちが社会の問題に対し、役割と責任を果たすためにはどんな考え方が必要だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題も自分ごととして捉える。 ・自分も社会の一員であることを自覚する ・支え合って生きていることを自覚する。 | <p>○教材は、教師が読み聞かせる。</p> <p>○「一部の人が悪い。」「活動をしている人がいる。」のどちらにせよ、社会的な問題を他人ごとのように傍観している私たちの意識に気付かせる。</p> <p>○よりよく生きたいという思いは誰しも同じであり、その自覚が共に支え励まし合おうとする気持ちにつながることに気付かせる</p> <p>○個人で考えさせた後、ペアで交流させ、発表させる。</p> <p>○個人で考えさせた後、班長(学習リーダー)を中心に班で交流させ、発表させる。</p> <p>○実際にはさまざまな場でさまざまな人があらゆる問題に対して取り組んでいる。彼らの支えに気づき、<u>正解規模の課題でも自分ごととして捉え、積極的に関わろうとすることが、根本的な解決につながっていくことに気付かせる。</u></p> <p>○今日の学習で考えたことをまとめさせる。</p> |
| 終末 5分 | <p>3 今日の学習で学んだことを互いに発表する</p> | <p>○ほかに地球規模で起こっている問題について、私たちがどう関わることができるか考える。</p> |

令和7年度 第2学年 教科等単元配列表

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8/9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|-----|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 国語 | 1 広がる歩むへ ・夏休み(4) ・アイズプラネット(4) ・夏休み(4) ・文法への導入 | 2 多様な視点から ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 3 言葉と向き合う ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 4 人間の営み ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 5 知識を深めて ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 6 いにしへの心豊かに ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 7 知識を深めて ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 8 知識を深めて ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 9 知識を深めて ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 10 知識を深めて ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 11 知識を深めて ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) | 12 知識を深めて ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) ・アイズプラネット(4) |
| 書写 | 1 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 2 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 3 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 4 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 5 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 6 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 7 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 8 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 9 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 10 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 11 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ | 12 行書の書き方を学び ・行書の書き方を学ぶ ・行書の書き方を学ぶ |
| 地理 | 近畿(20) | 近畿(20) | 日本の地域的特色(15) | 九州地方(5) | 中国・四国地方(5) | 近畿地方(5) | 中部地方(5) | 関東地方(5) | 東北地方(5) | 北海道地方(5) | 地域の在り方(3) | |
| 歴史 | 近畿(20) | 近畿(20) | 日本の地域的特色(15) | 九州地方(5) | 中国・四国地方(5) | 近畿地方(5) | 中部地方(5) | 関東地方(5) | 東北地方(5) | 北海道地方(5) | 地域の在り方(3) | |
| 公民 | 近畿(20) | 近畿(20) | 日本の地域的特色(15) | 九州地方(5) | 中国・四国地方(5) | 近畿地方(5) | 中部地方(5) | 関東地方(5) | 東北地方(5) | 北海道地方(5) | 地域の在り方(3) | |
| 数学 | 式の計算(15) | 連立方程式(12) | 一次関数(19) | 図形の調べ方(15) | 図形の性質と証明(21) | 場合の数と確率(9) | 箱ひげ図とデータの活用(5) | | | | | |
| 理科 | 化学変化と原子・分子(34) | 生物の体のつくりとはたき(39) | 地球の大気と気候の変化(30) | | | | | | | | | |
| 総合 | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | O中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) ・中津のまち(13) | |
| 特活 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | 中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 ・中学生としての自覚 | |
| 道徳 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 ・おにぎり伝説 | |
| 外国語 | PROGRAM 1 (8) Step 1 (2) | PROGRAM 2 (10) Power-Up 1 (2) | Step 2 (2) Program 3 (10) | Our Project 4 (4) Reading 1 (7) | Power-Up 2 (2) PROGRAM 4 (10) Power-Up 3 (2) | Step 3 (2) Program 5 (10) | PROGRAM 6 (10) Power-Up 4 (2) | Step 4 (2) Our Project 5 (4) Reading 2 (7) | PROGRAM 7 (10) | PROGRAM 8 (10) Power-Up 5 (2) Step 5 (2) | Our Project 6 (4) Reading 3 (6) | |
| 音楽 | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | 明日を待たせて ・明日を待たせて ・明日を待たせて | |
| 美術 | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | 学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり ・学びの楽しさと深まり | |
| 技術 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | B 生物育成の技 | |
| 家庭 | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | B 衣食住の生活【食生活】(26) | |
| 保体 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | 体育理論 ・体育理論 ・体育理論 | |

令和7年度 城北中学校 第3学年 教科等単元配列表

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8/9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 国語 | 1 課本学習へ ・読者の立場から読み解く ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 2 物語を改めて ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 3 物語を改めて ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 4 物語の中で ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 5 物語の中で ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 6 いにしへの物語 ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 7 物語を読み出す ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 8 物語を読み出す ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 9 物語を読み出す ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 10 物語を読み出す ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 11 物語を読み出す ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き | 12 物語を読み出す ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き ・「あはれ」の読み解き |
| 書写 | | | | | | | | | | | | |
| 地理 | | | | | | | | | | | | |
| 歴史 | | | | | | | | | | | | |
| 公民 | | | | | | | | | | | | |
| 数学 | 式の展開と因数分解(18) | 平方根(16) | 二次方程式(15) | 関数 $y=ax^2(17)$ | 図形と相似(23) | 円の性質(10) | 三方の定理(13) | 宇宙を観る(23) | 自然と人間(29) | 地域社会と私たち | より良い社会を目指して | |
| 理科 | 生命の連続性(23) | 化学変化とイオン(29) | 運動とエネルギー(35) | 宇宙を観る(23) | 自然と人間(29) | 自然と人間(29) | 自然と人間(29) | 自然と人間(29) | 自然と人間(29) | 自然と人間(29) | 自然と人間(29) | |
| 総合 | O健康学習(福祉教育)(5) ・ピーチグリーン活動 ・ピーチグリーン活動 ・ピーチグリーン活動 Oようこそ先輩(23) ・オリエンテーション ・高校調べ、スライド作り ・ようこそ先輩関係事項の整理、資料分組 ・振り盛り、プレゼン準備 ・ようこそ先輩で学ぶ、高校調べのプレゼン練習、発表、振り盛り | | | | | | | | | | | |
| 特活 | 学習への取り組み ・通読情報学習 ・生徒会の充実に向け | 高校入試の仕組み ・学習の習慣の確立 ・学習での役割 | 1 学習の反省 ・読書体験中の生活 | 2 学習の反省 ・文化祭に向けて ・心身の健康と安全 | 3 学習の反省 ・文化祭に向けて ・心身の健康と安全 | 4 学習の反省 ・文化祭に向けて ・心身の健康と安全 | 5 学習の反省 ・文化祭に向けて ・心身の健康と安全 | 6 学習の反省 ・文化祭に向けて ・心身の健康と安全 | 7 学習の反省 ・文化祭に向けて ・心身の健康と安全 | 8 学習の反省 ・文化祭に向けて ・心身の健康と安全 | 9 学習の反省 ・文化祭に向けて ・心身の健康と安全 | |
| 道徳 | 相手を思いやる ・世界一のロックアーム ・あもれん打りの女性 | 思いやりを大切に ・エリカ―春樹のいのち― ・私も高校生 ・平野文庫館の二行 | No Charity, but a Chance ・朝の夏のはじまり ・平野文庫館の二行 | 二つの手紙 ・世界を動かした手紙 ・電車のなか ・あつた、あつた、あつた | 二つの手紙 ・世界を動かした手紙 ・電車のなか ・あつた、あつた、あつた | 二つの手紙 ・世界を動かした手紙 ・電車のなか ・あつた、あつた、あつた | 二つの手紙 ・世界を動かした手紙 ・電車のなか ・あつた、あつた、あつた | 二つの手紙 ・世界を動かした手紙 ・電車のなか ・あつた、あつた、あつた | 二つの手紙 ・世界を動かした手紙 ・電車のなか ・あつた、あつた、あつた | 二つの手紙 ・世界を動かした手紙 ・電車のなか ・あつた、あつた、あつた | 二つの手紙 ・世界を動かした手紙 ・電車のなか ・あつた、あつた、あつた | |
| 外国語 | PROGRAM 1 (8) Step 1 (1) | PROGRAM 2 (8) Step 1 (1) | PROGRAM 3 (8) Power-Up 1 (1) Step 2 (1) | PROGRAM 4 (8) PROGRAM 5 (8) Power-Up 2 (1) Step 4 (1) | PROGRAM 6 (11) Our Project 8 (4) Power-Up 3 (1) | PROGRAM 7 (8) Power-Up 4 (1) Reading 2 (5) | Special Project (2) Further Reading 1 (7) | Further Reading 3 (7) | 3年間の復習 (2) | | | |
| 音楽 | 花は 花の唄 My Vocal | リコーダー・LESSON4(3) | ブルババ・モルダウ(4) 社会を救った音楽 | Let's Celebrate (4) | クワンダラ 第1巻(4) | 歌謡曲(2) 「ゆき」に似せよう 伝統音楽の魅力を伝えよう | 歌謡曲(2) 「ゆき」に似せよう 伝統音楽の魅力を伝えよう | 歌謡曲(2) 「ゆき」に似せよう 伝統音楽の魅力を伝えよう | 歌謡曲(2) 「ゆき」に似せよう 伝統音楽の魅力を伝えよう | 歌謡曲(2) 「ゆき」に似せよう 伝統音楽の魅力を伝えよう | 歌謡曲(2) 「ゆき」に似せよう 伝統音楽の魅力を伝えよう | |
| 美術 | 学びの深さと美意識 社会にかきこまれる力 | あの日を忘れない(2) わたし自身を誇って(9) | デザインで地域を豊かに(1) | あなただけのイメージを輝かせよう (6) | ルネサンスが目指したもの(1) | どこまで修練すべきか(2) | どこまで修練すべきか(2) | どこまで修練すべきか(2) | どこまで修練すべきか(2) | どこまで修練すべきか(2) | どこまで修練すべきか(2) | |
| 技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | D 情報の技術 | |
| 家庭 | | | | | | | | | | | | |
| 保健 | 体育理論 ・体づくり運動 | 陸上競技/器械運動 ・体づくり運動 | 水泳/ダンス ・体づくり運動 | 球技(ネット型)/武道 ・体づくり運動 | 球技(ボール型) ・体づくり運動 | 球技(ボール型) ・体づくり運動 | 球技(ボール型) ・体づくり運動 | 球技(ボール型) ・体づくり運動 | 球技(ボール型) ・体づくり運動 | 球技(ボール型) ・体づくり運動 | 球技(ボール型) ・体づくり運動 | |

(4) 租税教育研究会指導案

第3学年 総合的な学習の時間指導案

令和7年11月14日(金)5校時

中津市立城北中学校3年1組

指導者 寶珠山健介

高濱 光宏

1 生徒観

本学級(学年)は、1年次には「ふるさと中津の魅力」をテーマとし、地域の歴史、文化財、環境保全に関する学習に取り組み、新聞製作を通して学習成果を表現した。2年次には「ふるさと中津の産業」をテーマに、職業調べ、職場体験、および「中津のうまいもん」のPR動画製作等に取り組み、地域産業の魅力と働くことの意義を学んだ。これらの活動を通して、生徒は主体的・協働的に学ぶ姿勢を少しずつ養い、ふるさと中津の良さや抱える課題を多面的・多角的に捉える力を身に付けてきている。

3年次は「ふるさと中津のまちづくり」をテーマとし、地域の諸課題に向き合い、その解決策を探究することを目指している。『「なかつのまち」において考えられる課題はどんなことだと思いますか』という事前アンケートでは、「身近な生活環境の整備(68人)」「安心・安全なまちづくり(45人)」「教育・文化施設の充実(43人)」「地域経済の活性化(34人)」「福祉・医療サービスの充実(19人)」など、生徒自身が日常生活の中で実感している課題が多く挙げられた。この結果は、中津市が抱える今日的な課題とも重なる部分が多く、生徒が地域の現状を自らの生活と結び付けて捉え始めていることを示唆している。

一方で、1・2年次の学習経験との関連付けや、「まちづくり」の当事者意識の醸成と、課題解決に向けた具体的な方策を主体的に立案する点については、引き続き課題が残る。今後は、各教科等で培った見方・考え方を最大限に活用し、協働的な学びの中で、より深く、多面的・多角的に課題解決の方策を探究できるよう支援を強化していく必要がある。

2 教材観

本単元は、3年間にわたり「ふるさと中津」をテーマとして取り組んできた探究学習の集大成と位置づけられる。1年次の歴史・文化・環境、2年次の産業や職業体験を通して培ってきた地域理解を基盤に、3年次では「ふるさと中津のまちづくり」をテーマとし、地域の諸課題を住民＝主権者の視点から捉え直し、持続可能な未来の中津を構想することを目指す。この学習は、生徒に「地域社会に参画する当事者意識」を育むものであり、キャリア教育および主権者教育の観点からも大きな教育的意義をもつ。

本校の総合的な学習の時間は、これまでビーチクリーン活動、職業人講話、地域の税理士による租税教育、中津青年会議所とのタイアップ授業など、地域人材や外部機関との積極的な連携を強みとしてきた。これらの学習を通して、生徒は「地域の人と学び合い、地域に貢献しようとする態度」を身につけてきており、本単元においてもその蓄積が生かされることが期待される。

学習のまとめとして、パフォーマンス課題「魅力あるまちづくりに向けた課題解決策の提案」を設定する。生徒は、地域の現状や課題を多面的・多角的に分析し、具体的な改善策や計画を立案・発表する過程において、社会、数学、国語など各教科で培った見方・考え方を総合的に活用することになる。さらに、生活と租税を結び付けて計画案を構想することにより、租税の意義や役割を実践的に理解し、納税者としての自覚や公共財政への関心を深めることができる。

以上のように、本単元は「これまでの地域学習を発展させ、当事者意識を持って未来を構想する学習」

として位置付けられ、まさに3年間の学びを統合化する最適な教材である。

3 指導観

本単元の指導にあたっては、これまでの3年間の学びを踏まえ、生徒が主体的に課題を捉え直し、焦点化し、解決に向けて目的意識をもって学習を進められるようにすることが重要である。1・2年次に培った地域理解や表現活動の経験を基盤とし、3年次では「ふるさと中津のまちづくり」を主権者の視点から考察する学習へと発展させ、当事者意識を伴った探究活動へと繋げていく。

本校の研究テーマである「自ら学び活動できる生徒の育成～人の話を聴き、考え、表現する活動の工夫～」の検証を念頭に置き、情報を収集し（Input）、比較・判断して思考を深め（Think）、成果を説明や発表を通して表現する（Output）という一連の学習プロセスを単元計画に組み込み、このプロセスを常に意識させながら学びを展開する。特に、表現活動においては、各班に配置した学習リーダーを中心に協働的な学びの場を形成し、互いの考えを尊重し合いながら学び合う姿勢を育成していく。

課題設定においては、これまでの学習経験を振り返りながら「なかつのまち」の理想像を構想させ、その実現に必要な要素と解決すべき課題を明確にさせる。情報収集では、地域おこしに取り組む方々や青年会議所の方々など、地域で活躍する人々と交流する機会を設け、生徒自身が目的に応じた手段を選び、必要な情報を主体的に集めていくことを重視する。収集した情報はポートフォリオやタブレットに蓄積し、表やグラフなど思考ツールを用いて整理・分析することで論点の焦点化を図り、根拠に基づいた考えの形成を促す。そして、学習のまとめとしては、地域参画を意識したプレゼンテーションを構成し、中津青年会議所からの専門的な助言を活かして、より効果的な表現へと高めていく。

このような指導を通して、生徒は地域の課題を自らの問題として捉え、具体的な解決策を構想する能力を育むとともに、郷土愛と地域に貢献する態度を養うようにする。さらに、発表の方法を生徒自身が選択し、行政関係者へ冊子・動画・直接発表など多様な形で提案を届けることで、主体的な社会参画の経験を全員に保障する。最後に「ふるさと中津のためにこれから自分が頑張ること」や「自分がどう関わるか」を手紙に綴ることで、学びを自己の生き方に結び付け、単元目標である「ふるさと中津の未来を主体的に創造し参画しようとする態度」の育成を確かなものになりたいと考えている。

4 単元の目標

これまでに学んだ「ふるさと中津の魅力」や「ふるさと中津の産業」の理解を基盤に、地域の課題を仲間と共に捉え直して解決策を考察・表現し、行政関係者への提案を通して、「ふるさと中津」の未来を主体的に創造し参画しようとする態度を育成する。

5 評価規準

| 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>① 中津市の魅力や課題を分野ごとに理解し、その原因や背景を踏まえて解決の方策をまとめることができる。</p> <p>② 「ふるさと中津のまちづくり」について考える中で、自分たちの生活との関連を実感し、探究的な学習の成果として位置付けている。</p> <p>③ 租税の使い道や補助金の目的を理解し、課題解決の計画に公共的な視点を取り入れている</p> | <p>① 1・2年次の学びを踏まえつつ、中津市の現状や理想像から課題を捉え直し、焦点化している。</p> <p>② 収集した情報を比較・分析し、根拠に基づいた説得力ある解決策を考察している。</p> <p>③ 発表の目的や相手を意識して、論理的でわかりやすい表現を工夫している。</p> <p>④ 課題解決の提案に、税や補助金の意義・役割を踏まえ、公共的視点を反映させている。</p> | <p>① 班員と協働的に学び、積極的に自分の役割を果たそうとしている。</p> <p>② 地域の活性化に向けた取り組みを考える中で得た知識や友達の考えを生かしながら、協働してプレゼンテーションを再考しようとしている。</p> <p>③ 課題解決に向けた自分の取り組みや状況を振り返り、地域の活性化に向けて粘り強く取り組もうとしている。</p> |

6 単元計画 (全20時間) (I:Input,T:Think,O:Outputを表す。)

| 次(時) | ○ねらい・学習活動 | 評価規準 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1次 (2) | <p>導入・振り返り(ワークシート①)</p> <p>○学びの積み上げを確認し、単元の見通しをもたせる(I)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2年次の学びを振り返り、事前アンケート結果を共有する <p>課題設定(ワークシート②)</p> <p>○課題を主体的に設定することができるようにする(T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本一〇〇なまち中津」を描き、課題を捉え直す ・租税アンケートの結果から解決したい課題を決定する | <ul style="list-style-type: none"> ・知・技① 主学態① ・思判表① |
| 2次 (6) | <p>解決策構想①(ワークシート③)</p> <p>○課題から選んだプレゼンテーマについて意見をまとめる(T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した理由やきっかけ、今後の予想を明確にする <p>解決策構想②(ワークシート④)</p> <p>○多様なアイデアを創出させる(T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十字チャートで方策を出す <p>プレゼンテーマ考案(ワークシート⑤・⑦)</p> <p>○テーマをまとめ直し、スローガンを決める(T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用紙にスローガンや予算案を算出する <p>解決策構想③(ワークシート⑥)</p> <p>○根拠ある方策を考察させる(T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地域の事例を比較・参考に検討する | <ul style="list-style-type: none"> ・思判表② ・思判表②③ ・知・技③ ・思判表③ ・思判表① |

| | | |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>税金（ワークシート⑧）</p> <p>○公共的視点に気づかせる（I）（T）（O）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・租税や補助金との関連を盛り込む | <ul style="list-style-type: none"> ・知・技③ |
| 3次 (3) | <p>企画書作成（ワークシート⑨）</p> <p>○まちづくりの内容をまとめなおし、客観視させる(T)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わりやすいよう、企画書にまとめなおす <p>地域調査</p> <p>○地域の課題や解決の方向性に触れる視野を広げさせ、耶馬溪にて地域の方から課題や取組について情報を集めさせる（I）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材（青年会議所・地域おこし協力隊）の講話を聞いたり、プレゼン内容を発表したり、実際に体験活動に参加する。 <p>情報整理</p> <p>○情報を共有・整理する力を養わせ、課題を焦点化させる（T）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報をポートフォリオに整理する ・表・グラフ・ICTを使って分析する | <ul style="list-style-type: none"> ・知・技① ・思判表③ ・知・技①② ・主学態① ・思判表② |
| 4次 (6) | <p>発表準備①</p> <p>○発表を練らせる（T）（O）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表資料作成及び発表練習する ・地域人材（青年会議所）の方よりアドバイスを受ける | <ul style="list-style-type: none"> ・思判表② 主学態① |
| 5次 (1) 本時 | <p>中間発表（クラス毎）</p> <p>○表現の工夫を相互に学ばせる／目標に立ち返らせる（I）（T）（O）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全班発表・相互評価（強みと改善点）する | <ul style="list-style-type: none"> ・思判表③ 主学態② |
| 6次 (1) | <p>発表準備②</p> <p>○ブラッシュアップさせる（T）（O）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表で得た学びを踏まえ、発表を改善する ・教師や他の班から意見をもらう | <ul style="list-style-type: none"> ・思判表② 主学態① 思判表③④ |
| 7次 (1) | <p>リフレクション</p> <p>○学習を自己の生き方や地域参画に結びつける（T）（O）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「未来の中津のために自分が頑張ること」を動画に記録し、市長へ渡す準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・知・技② 主学態③ |

7 本時の展開

(1) 本時のねらい

これまで調べたこと、学んだこと、体験したことなどを総合し、完成させた「ふるさと中津のまちづくり」プレゼンテーションについて、伝える相手や目的を意識しクラス内で発表する活動を通して、プレゼンテーションをより良いものにしようとしている。

(2) 本時の評価規準

- ・発表の目的や相手を意識して、論理的でわかりやすい表現を工夫している。【思・判・表】
- ・地域の活性化に向けた取り組みを考える中で得た知識や友達の考えを生かしながら、協働してプレゼンテーションを再考しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 【租税教育の視点】

- ・税の負担者として、租税や補助金の使い道について理解と関心を深め、納税者としての自覚を養う。

| 時間 (分) | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 1 | 1. 本時の流れ、めあてを確認する。 | 学習リーダーが行う。 | |
| めあて 他クラスの発表を聞いて「ふるさと中津のまちづくり」プレゼンを見直そう | | | |
| 4 | 2. 評価シートについて説明する。 ①内容 ②資料 ③発表 ④郷土愛 ⑤応援 ⑥税金 の観点で◎、○、△で評価する。 | 学習リーダーが行う。 キーワード ・未来・ふるさと中津 ・まちづくり・発展・ 貢献・見直し | ・【思考力・判断力・表現力】 (プレゼンテーション) |
| 25 | 3. 班員をA、B、Cの3グループに分割して発表を行う。 プレゼン(3分)、評価シート記入(2分) ブラッシュアップ(2分)の流れで、計3回行う。 | 学習リーダーが進行する。 | |
| 7 | 4. 班員に、他班の内容を伝え、キーワードを使ってロイロノートの共有ノートでよかった点を伝える。 | | ・【主体的に学習に取り組む態度】 (評価シート) |
| 10 | 5. キーワードを使って振り返りをする。 班で話し合う(6分) 発表する(4分) | 教師が進行する。 視点を明確にする。 ロイロノートでもらったコメントを参考にしながら振り返る。各班の学習リーダーが発表する。 | |
| 3 | 6. 教師から助言・指導 | ・準備の様子や工夫や努力を認め、さらに改善できそうなことを示す。 | |

振り返りの例 ※キーワードを用いて

- ・未来の中津をよりよいまちにするために、まだできることがあると感じた。案を見直し、良いプレゼンにした。
- ・中津の未来をどう発展させるかという視点をもってプレゼンを改善したい。
- ・他の班からのアドバイスを参考にして、プレゼンを見直したい。

ふるさと中津のまちづくり ～プレゼン評価項目～

3年()組()番 名前()

(班)

| 観点 | プレゼン | ◎○△ | 発表に関するメモ |
|--------|-----------------------------------------------------------------|-----|--------------|
| ① 内容 | 解決したい課題や活動内容の目的が分かりやすく、独自性が見られ、興味がわく内容だったか | | 発表に関するメモ |
| ② 資料 | 文字を見やすくする工夫があり、資料の信頼性は高く、必要に応じて、図や表を使っていたか | | |
| ② 発表姿勢 | 声の大きさや速度は適切であり、中津の課題を解決したいという熱意は伝わってきたか | | |
| ③ 郷土愛 | 中津への愛を感じる活動内容であり、将来の中津がもっと良くなって欲しいと考えていたか | | 発表者への感想・コメント |
| ④ 応援 | 自分もその活動に関わりたい、他の人にもこの活動を紹介したいと思ったか | | |
| ⑤ 税金 | その活動に税金が使われることで、特定の人だけでなく、みんなに良い影響があり、より少ない税金でも効果のある取り組みとなっていたか | | |

(班)

| 観点 | プレゼン | ◎○△ | 発表に関するメモ |
|--------|-----------------------------------------------------------------|-----|--------------|
| ① 内容 | 解決したい課題や活動内容の目的が分かりやすく、独自性が見られ、興味がわく内容だったか | | 発表に関するメモ |
| ② 資料 | 文字を見やすくする工夫があり、資料の信頼性は高く、必要に応じて、図や表を使っていたか | | |
| ③ 発表姿勢 | 声の大きさや速度は適切であり、中津の課題を解決したいという熱意は伝わってきたか | | |
| ④ 郷土愛 | 中津への愛を感じる活動内容であり、将来の中津がもっと良くなって欲しいと考えていたか | | 発表者への感想・コメント |
| ⑤ 応援 | 自分もその活動に関わりたい、他の人にもこの活動を紹介したいと思ったか | | |
| ⑥ 税金 | その活動に税金が使われることで、特定の人だけでなく、みんなに良い影響があり、より少ない税金でも効果のある取り組みとなっていたか | | |

《プレゼン発表記録簿》 発表者は、自分の発表に関して振り返り・記録をしましょう。

| | 【上手くできたところ】 | 【上手くできなかったところや改善点】 |
|---------|-------------|--------------------|
| 自己評価 | | |
| 他者からの意見 | | |



《班のふり返し》 キーワード：未来・ふるさと中津・まちづくり・貢献・発展・見直し

他の班の発表や、もらった意見から、キーワードを用いて自分の班のプレゼンについて話し合い、振り返りましょう。

| |
|---------------------------------------------|
| 【自分の班のプレゼン発表・内容に関して良い評価ができるところ】 |
| 【自分の班のプレゼン内容にまだ足りないところや、こうしたら良い評価になるという改善点】 |

(5) 租税教育公開研究会 事後研究会

1. 単元設計について

- 授業のテーマと導入: 3年生の授業テーマは「中津のまちづくり」に設定した。導入では、1・2年次で学習した「ふるさと中津の魅力」と「ふるさと中津の産業」を振り返り、これまでの学習内容の再確認を図った。
- 生徒の初期反応と課題設定: 当初の教員の想定に反し、生徒からは「今の中津が好き」という肯定的な意見が多く出された。これを受け、現状を肯定した上で「それでも存在するまちの課題（生活環境、教育文化、地域経済、福祉医療など）」へと焦点を絞り込んでいった。
- 課題の具体化と調査活動: 課題に現実味を持たせるため、「まちづくり提案」を設定。情報収集や、耶馬溪などの校外活動を通じ、中津の産業や良さを再発見する活動を展開した。
- アイデア出しと絞り込み: 「日本一〇〇なまち、中津」というテーマでアイデアを出し、「実現可能性」と「予算」の4象限マトリクスで分類・検討。予算の有無だけでなく、必要性を重視して班の提案を決定させた。
- 最終目標と本時の位置づけ: 最終目標は、市長に提言し実際の行動に結びつけること。本時の授業は、その前段階として、伝える相手を意識し、相互評価を通じてプレゼン資料を改善するブラッシュアップの場として設定した。
- ICT活用と情報リテラシー: プレゼン作成にあたり、情報の引用元や参考資料の明記を徹底した。情報の正確性を担保するため、引用元を確認するよう指導した。

2. 公開研究会での授業について

- 相互評価の仕組み: ワールドカフェ形式を導入し、各班には必ず計11~12名からフィードバックが集まる仕組みを構築した。
- フィードバックと生徒の様子: 厳しい指摘も期待されたが、実際は「ここが良かった」という肯定的なコメントが多かった。生徒たちは緊張しつつも熱心に取り組み、発表者同士が発表時間を管理し合うなど、良好な人間関係の中で熱心に取り組む姿がみられた。

3. 授業実践への評価と提案（指導主事より）

- 肯定的評価:
 - ・生徒主体の探究的な活動（学習リーダーの活用、ワールドカフェ形式）。
 - ・アウトプット（プレゼン）を意識したインプット活動（明確な視点を持った相互評価）。
 - ・総合的な学習の時間と教科（技術・国語・社会など）を横断したカリキュラム・マネジメント。
 - ・1~3年生の学習を系統的に位置づけた「なかつの未来を創る学びの羅針盤」の作成。
- 今後の研究への提案:
 - ・バックワードデザインの徹底: 目的（ふるさとへの参画態度の育成）を明確にし、評価基準（評価シート）を先に定め、それに基づいて指導内容を決定する。
 - ・批判的思考力の育成: 「なぜこの素晴らしい提案はまだ実現されていないのか?」といった問い直しや、各教科での批判的視点を持つ活動を取り入れ、総合的な学習と連携させることが有効。
 - ・自己評価の導入: 評価シートを用いた自己評価を行い、生徒が自律的に学びを深めるサイクルを作

る。

・表現する場へのこだわり: 「根拠を明確にして表現する」ことを徹底的に追求し、生徒の「まちを良くしたい」という思いをさらに深める。

4. 租税教育の視点

- 意識化の重要性: 教員が「租税教育」という視点を意識することで、日常の活動の中に税との関連を見出し、学びを深めることができた。
- 評価シートへの反映: プレゼンの評価項目に、「郷土愛」や「税金（活動資金）」に関する項目を意図的に含めることで、生徒に納税者としての自覚を促した。当初12項目あったが、生徒が聴くことに集中できるよう6項目に絞り込んだ。
- 生徒の変化: 「応援したい（貢献）」「お金の使い道がわからなかった（批判的コメント）」といった発言が見られ、本校の租税教育の目的（4項目）が芽生え始めていた。

課題

1. 現状肯定から一步踏み込んだ「課題発見力」の育成

生徒の多くが「今の中津が好き」という強い肯定感を持っているため、既存の良さを認める一方で、未来を見据えた「真の地域課題」を客観的なデータに基づいて主体的に見出すための視点をいかに養うかが課題である。

2. 相互評価における「批判的・多角的な視点」の深化

ワールドカフェ形式の相互評価では肯定的なコメントが多く見られ、人間関係の良さが確認された。しかし、提案の質をさらに高めるためには、改善点を厳しく指摘し合えるような評価指標の具体化や、異なる立場（市民、行政、事業者など）からの多角的なフィードバックを導き出す工夫が必要である。

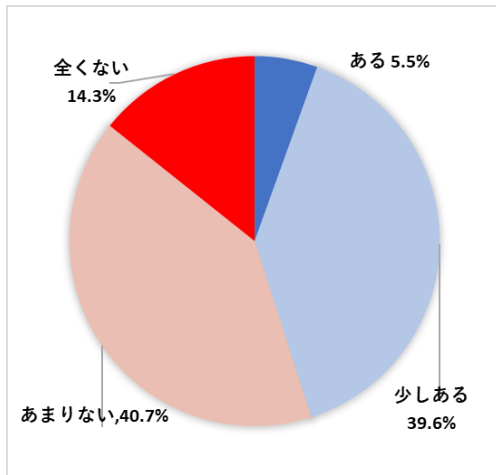
3. 情報リテラシーの定着と発信内容の根拠の強化

情報の引用元を明記させる指導は徹底したが、収集した情報の信頼性を生徒自らが判断し、自分の主張を裏付けるための「根拠あるデータ」としてより効果的にプレゼンテーションに活用させるための継続的な指導が求められる。

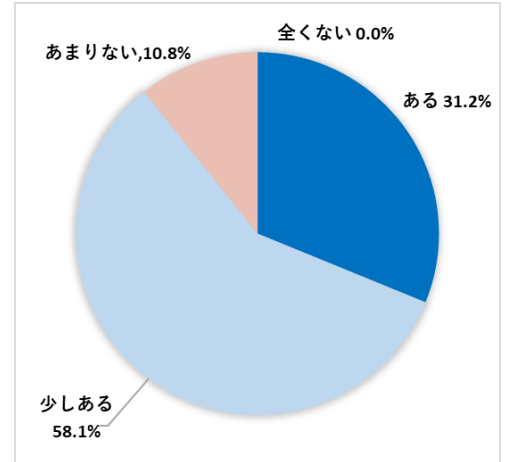
10.租税に関するアンケート結果

1 あなたは、税について興味・関心がありますか。

5月

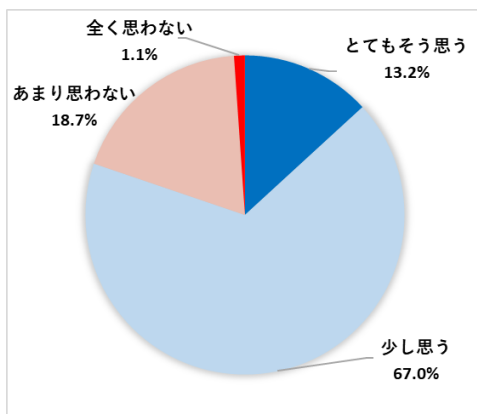


12月

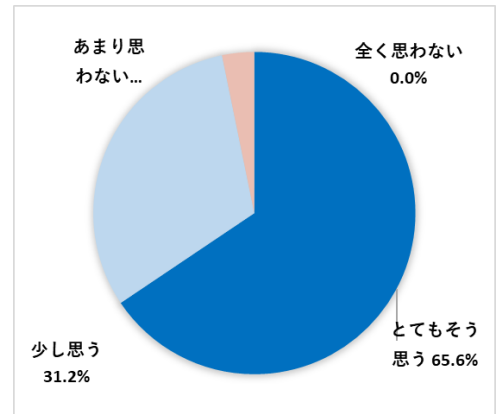


2 税がどのように使われているか理解できていると思いますか。

5月

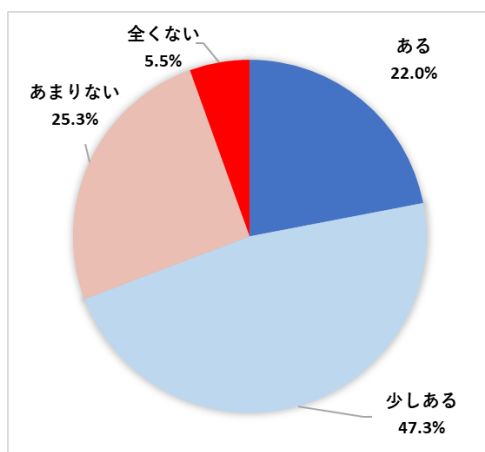


12月

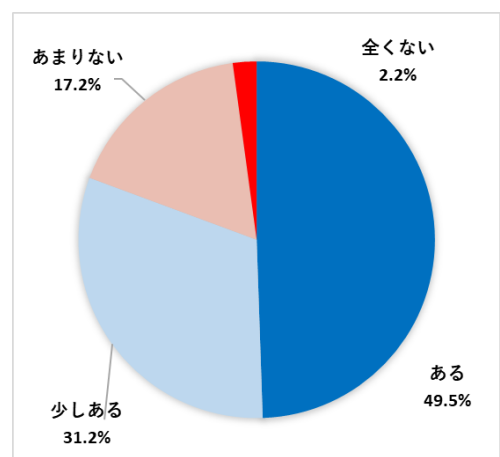


3 税金がどのように使われるべきかについて、考えたことがありますか。

5月

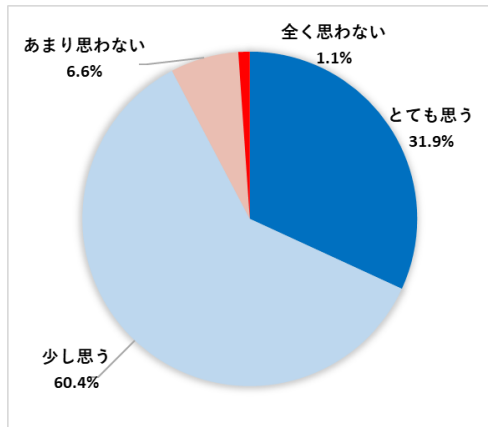


12月

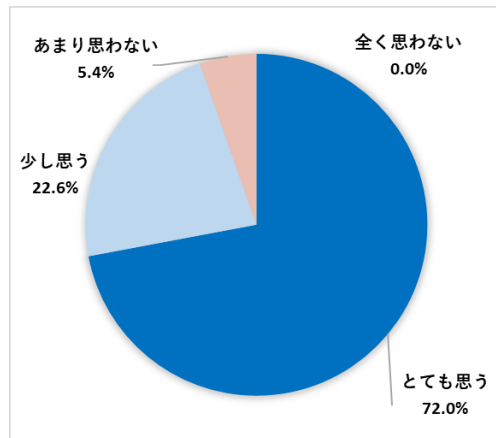


4 税金について学ぶ必要があると思いますか。

5月

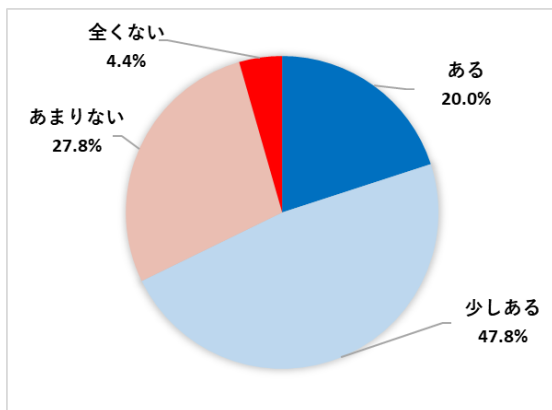


12月

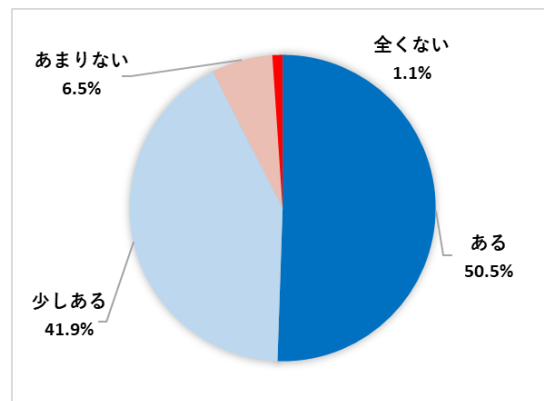


5 私たちが暮らしている中津のまち（地域）について、歴史や文化や産業などに興味・関心がありますか。

5月

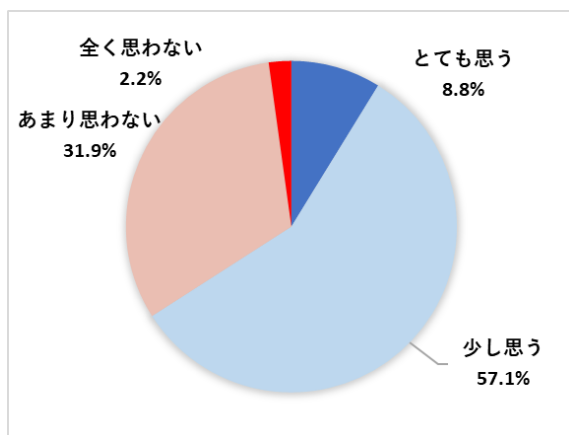


12月

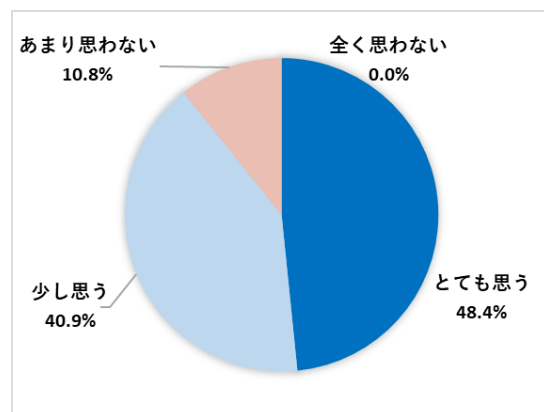


6 地域社会のために何か関わっていきたいですか。

5月

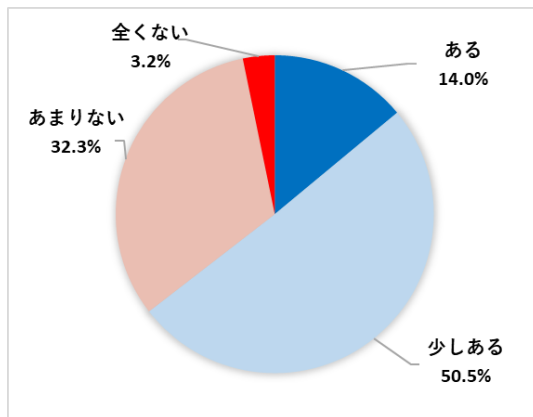


12月

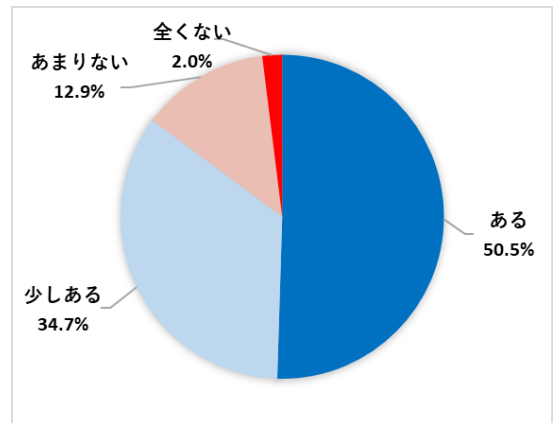


7 中津の地域社会をよくするために、税金がどのように使われるべきか考えたことがありますか。

5月

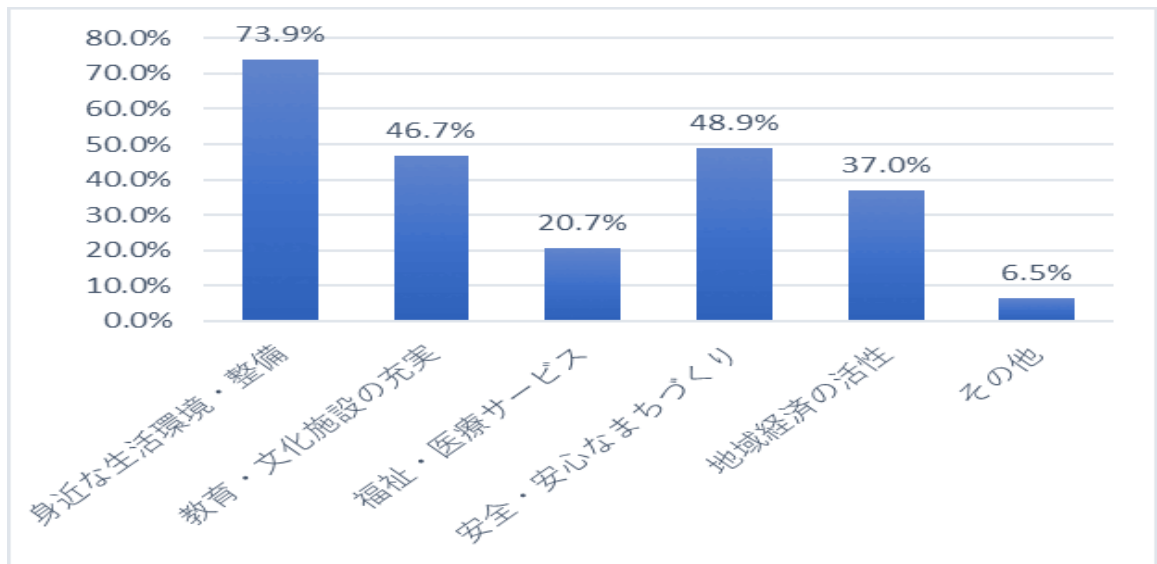


12月

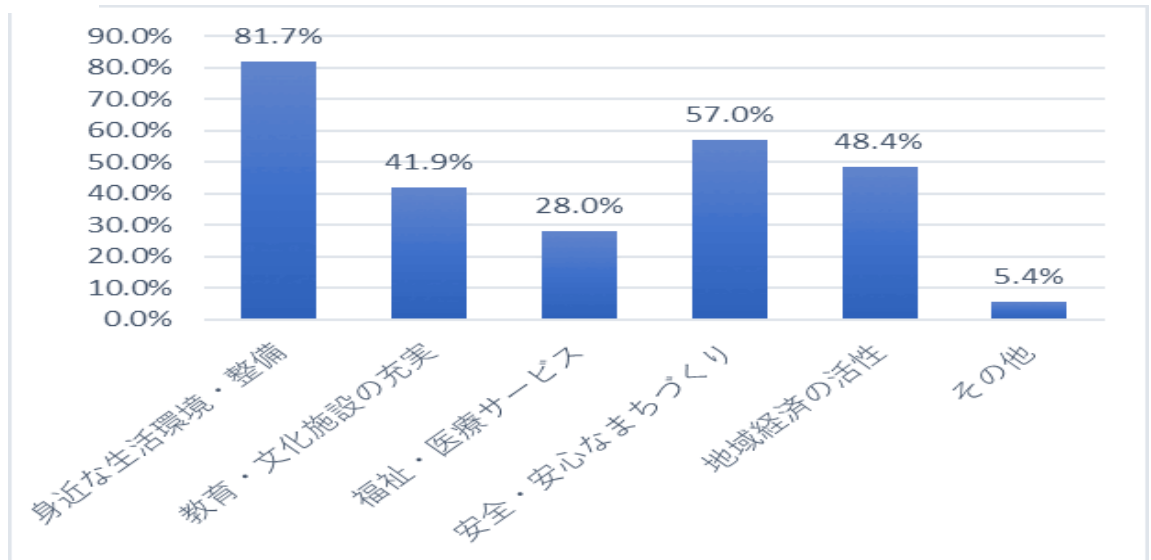


8 「なかつのまち」において、考えられる課題はどんなことだと思いますか。(複数回答可)

5月



12月



11. 租税教育の実践の成果と課題

【研究のスタート地点：事前の実態分析と課題】

5月時点のアンケート結果では、「地域社会に関わっていききたい（問1）」という回答が8.8%、「税の用途への理解（問2）」が20.9%と、極めて低い水準にあった。生徒にとって租税は「大人や社会が決めるもの」という遠い存在であり、自分たちの生活やふるさと中津の未来と結びついていない「知識と当事者意識の乖離」が大きな課題となっていた。この「無関心」の状態から、いかにして租税を「自分事」として捉え直させるかが、本研究の出発点だった。

1. 研究の成果：ITO デザインを通じた「自律」への変容

研究主題である「ITO (Input, Think, Output) デザイン」を租税教育に適用し、学びを地域課題と結びつけたことで、生徒が租税を「自分事」として捉え、社会に貢献しようとする「自律」した姿への変容が見られた。

成果①：社会参画意識の劇的な向上（Input / Think の成果）

「中津のまちづくり」という身近で切実な課題をテーマに据え、現状（Input）を整理した上で、自分たちに何ができるか（Think）を深く考えさせた。その結果、事前アンケートでは8.8%に留まっていた「地域社会に関わっていききたい」という意識が、事後には48.4%へと劇的に向上した。これは、租税が社会を支える仕組みであることを理解し、主権者としての当事者意識が芽生えた証と言える。

成果②：「税」の視点から社会の仕組みを捉え直す多角的な思考力の育成（Input / Think の成果）

単なる知識の習得に留まらず、ビーチクリーン活動や職場体験といった日常的な活動を「税」の視点から再定義する試みを行った。これにより、公共サービスを、「(税を) 取られるもの」という受動的な立場から、「自分たちの生活を支えるための会費」として主体的に捉え直す視点が育まれた。

さらに、まちづくり提案の検討過程では、「予算と実現可能性」の4象限マトリクスを活用した。限られた財源（税金）の最適な使い道を模索する中で、単なる願望ではなく「公益性」や「必要性」に基づいた優先順位を判断する姿が見られるなど、社会を支える一員としての多面的な思考力が大きく向上した。

成果③：論理的な発信力の向上（Output の成果）

3年生の「まちづくりプレゼン」において、地域の方々という「本物の聞き手」に対し、税の使い道を提案する場（Output）を設けた。目的意識を持った発信活動により、自分の意見を論理的に構成し、他者に伝える表現力が大きく向上した。

【考察：意識の継続と成果の裏付け（問7について）】

問7（中津をよくするための税の使い道について考えたことがあるか）については、他の設問と比較して、事前・事後で数値に顕著な変化は見られなかった。しかし、これは決して停滞を意味するものではない。むしろ、事前段階から「中津をより良くしたい」という潜在的な思考や郷土愛が高い水準で備わっていた証拠であると言える。今回の研究活動は、生徒が元々持っていたその「想い」に対し、租税という「具体的な仕組み」と「論理的な根拠」という武器を与えたのである。この土台があったからこそ、問1（参画意識）や問2（理解度）の劇的な向上に結びついたと分析している。

2. 今後の課題：学びを「深化」させ「継続」させるために

【教育課程】ITO デザインの教科横断的な位置づけの明確化

「総合的な学習の時間」を核としつつ、各教科の系統的な連携をさらに強化し、教育課程全体で租税教育を推進する体制を整える必要がある。

【指導方法】「正解のない問い」に対する熟議の推進と社会への「常時接続」

地域課題という唯一の「正解のない問い」に対し、自分たちとは異なる立場や多角的な視点から合意形成を図る「熟議」の場をさらに充実させる。これまでの実践で見られた生徒同士の良好な人間関係を基盤としつつ、時には互いの意見を批判的に吟味し合い、より質の高い「納得解」を導き出す対話のプロセスを重視する。

また、学校内の学びに留まらず、地域住民や外部専門家との連携、リアルタイムな社会情勢の活用を通じて、学びを社会と「常時接続」させる。これにより、生徒が常に社会の当事者としてのアンテナを張り、税や公共の在り方を自分事として考え続ける、持続可能な主権者意識の育成を図る。

【評価】資質・能力の変容を可視化する指標の策定

アンケートによる意識調査に加え、記述内容や議論の過程を評価するルーブリック（評価基準）を具体化し、生徒の「自律」の度合いを客観的に評価する仕組みを構築する。

今後は、本研究で培った「自ら考え、判断する力」を、学校全体で推進している「言語能力」や「自己調整能力」の育成と歩調を合わせ、全教科で活用できる形へと汎用化していきたい。



学校経営の基調

日本国憲法・教育基本法・学校教育法
関連法令・学習指導要領
大分県教育行政及び教育指導の重点方針
中津市教育行政基本方針及び
中津市学校教育指導方針

学校教育目標

自ら学び 互いを尊重し 意欲的に活動する「自律」した生徒の育成

校訓

『責任・自律・明朗』

育成を目指す資質・能力

言語能力・自己調整能力

- 生徒の願い
- 地域・保護者の願い
- 教職員の願い

学校経営の基本方針

◎『生徒のための学校』を経営理念の柱とし、人権尊重の精神を基盤としながら、公教育としての責務を果たすために、教職員・生徒・保護者が互いに信頼、協力し、学校の教育目標の具現化に努める。 ～「校訓」を活かした学校づくりの推進～

◎全教職員の経営参画による秩序ある学校運営体制を確立し、意図的・計画的な教育実践に努める。 ～チーム型校務分掌による効果的な組織編成～

◎今日的な教育課題の解決や日常実践の改善に向け、家庭・地域・専門機関との連携を深め、信頼される学校づくりの視点に立った創造的な教育活動を推進する。 ～「チーム城北」の具現化に向けての共通理解と推進～

目指す生徒像 ～すべての学びの場を大切に生徒

- ① 基本を身につけ、目標に向かって毎日努力し学び合う生徒（生きて働く知識・技能の習得）
- ② 自分で考え行動・表現し、自他ともに大切に、支え合う生徒（思考力、判断力、表現力等の育成）
- ③ 根気強く主体的に学び、創意工夫するたくましく生きる力をもつ生徒（学びに向かう力、人間性の育成）

目指す学校像

～確かな信頼と活力のある学校

- ① 知徳体のバランスのとれた人間力を育成できる学校
- ② 生徒が目標を持ち生き生きと活動する学校
- ③ 保護者や地域と協働して子どもを育てる学校
- ④ ふるさとを誇りにする子どもが育つ学校

目指す教職員像

～『子どもを真ん中』をモットーとする教職員

- ① 豊かな人間性と専門的な知識・指導力を持つ教職員
- ② 協働の意識を持ち、生徒・保護者・地域の信頼に応える教職員
- ③ 社会の変化に対応し、日々研鑽を重ねる教職員
- ④ 学校や地域を愛し教育公務員としての職務に精進する教職員

目指す家庭像・地域像

～子育てについて学びを大切にする保護者・地域

- ① 教師との信頼関係を大切にし、同じ目線で子育てを行う家庭・地域
- ② 社会のマナーや基本的生活習慣を親が模範として示す家庭・地域
- ③ 人権尊重の精神を基盤とした家庭教育を進める家庭・地域
- ④ ルールを大切に保護者・地域

具体的方策のキーワード

「つなぐ・つながる・つなげる」

未来につなげる

《未来づくり部》

- ◎ 自己のよさをとらえ、なりたい自分に向かってあきらめずに努力を続ける生徒の育成
- ア 夢を語り合う教育の推進
 - キャリア教育において、勤労観・職業観を育成し、自分の生き方を考え、語り合う教育活動の推進
- イ よさを認め合う
 - 生徒会活動を通して、よさを認め合う
 - 掲示物、表彰等でよさを知らせながら、認め合う環境をつくる
 - 行事、部活動、学級等の場において、よさを伸ばすために努力させ発揮できるようにする

社会とつながる

《未来づくり部》

- ◎ ふるさと学習や地域貢献活動を通して、自分の住む町や学校を愛し、社会に貢献できる生徒の育成
- ア ふるさと学習の充実
 - 中津歴史博物館を活用
 - 三白間の浜
- イ SDGsを軸とした、よりよい未来を創造する学習
 - 世界の動向を知り、自ら課題を設定し、課題解決学習を進める
 - 地域の行事やボランティア活動に積極的に参加し、地域を愛し、地域に愛され、地域に貢献できる生徒の育成に努める
- ウ 地域貢献活動の推進
 - 地域の方々との交流 → 地域を担う意識を高めていく

深く

学びをつなげる

《学びづくり部》

- ◎ 教科を横断させたり、今までの学びをつないだりして、根拠を示しながら表現できる生徒の育成
- ◎ 健康な体をつくる運動・食育・生活習慣を充実させ、心身ともにたくましい生徒の育成
- ア 学びの基礎づくり
 - 安心して生活できる環境づくり
 - 主体的に学ぶ基礎づくり
- イ 生徒が主体的に学ぶ授業づくりの推進
 - 根拠をもとに考える生徒を育成する授業づくり

友とつながる

《絆づくり部》

- ◎ 多様な「なかま」のよさを受け止め、いじめや差別をなくし、思いやりと感謝の心でつながることができる生徒の育成
- ◎ 生徒会活動の活性化及び行事や体験的な活動を活かした集団及び個々の自己調整能力（人間関係形成力）の育成
- ア 望ましい人間関係をつくる人権感覚を育む指導の充実
 - 人権教育・道徳教育を充実させ、人権尊重の精神を基盤に、一人ひとりの違いを認め、自他を大切に、他者ともよくつながろうとする教育の推進
 - いじめや差別をなくし、思いやりと感謝の心でつながることができる生徒の育成
 - 生徒会活動及び行事や体験的な活動を通して、集団及び個々の人間関係を築いていく力を育成
 - (9年間の) 系統的な人権学習を計画的に推進し、自ら考え・感じ・行動できる生徒の育成
 - 授業だけでなく、日常的に人権感覚の育成を図る
- イ 一人ひとりを大切にする特別支援教育の育成を図る
 - 個々の教育的ニーズに応じた指導の充実を図るとともに、社会生活へ適応し、自立できる能力を育成
 - 定期的に情報交換を実施し、特別な支援を必要とする生徒の状況を共通理解し、支援を進めていく
 - 特別支援学級、さわやか教室等、生徒の実態に応じた学びの場の提供
- ウ 人間関係づくりプログラムや学級力アンケートの活用

正しく

「なかまづくり」を基盤に据えた

「一人ひとりを大切にする教育」

- 生徒理解
- 進路・学力保障
- 人権学習
- 保護者・地域との連携

経営を支える方策及び働き方改革

- 職員研修の充実
- 人材育成
- 学校運営協議会

子どもたちの「命」と「未来」を預かり保障する「チーム城北」

- 『生徒のための学校』を経営理念の柱とした教育活動の推進
- 地域に愛され信頼される学校づくり
- 危機管理体制及び相談体制の確立

- チーム型校務分掌組織
- 安全・安心の確保
- 在校等時間の自己管理の徹底

